ゆうでんかい 大阪電気通信大学友電会

大阪電気通信大学同窓会組織

YUDENKAI

The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University

No.132
2020/3

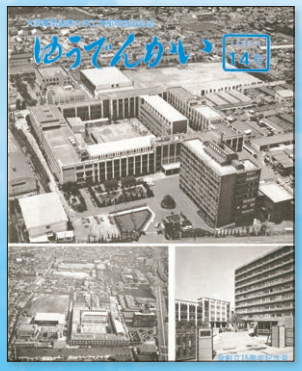
友電会創立55周年記念特集

～過去から未来へ 人と人をつなぐ 新たな絆～

2号

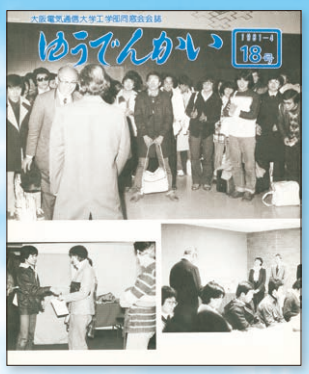
4号(10周年)

10号



14号(15周年)

16号



18号

20号

22号

38号(創立25周年)

39号

40号

41号

上から１段目：開学から20年間の学舎　中段：草創期の想い　下段：開学25周年と四條畷学舎完成

42号

44号

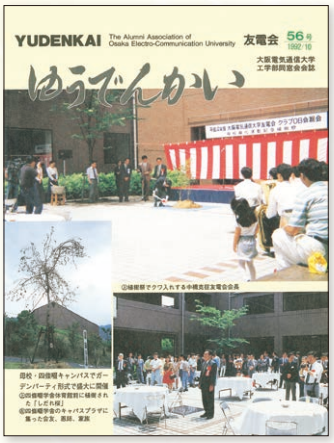
45号

49号（友電会25周年）

51号

53号

54号



56号

57号

60号

65号

70号（30周年）

76号

81号

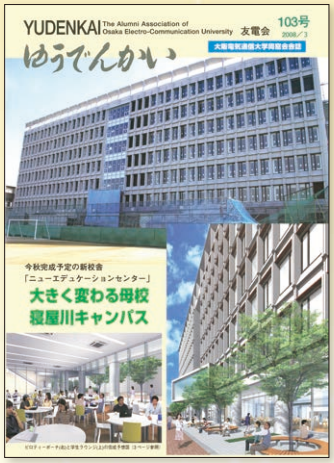
83号

84号

91号

95号

96号

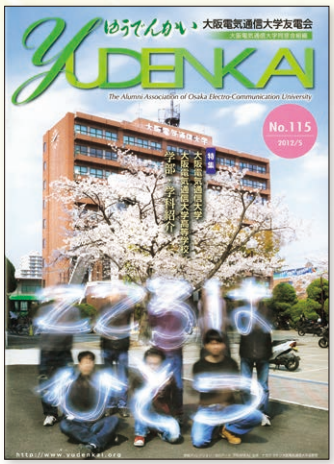


103号

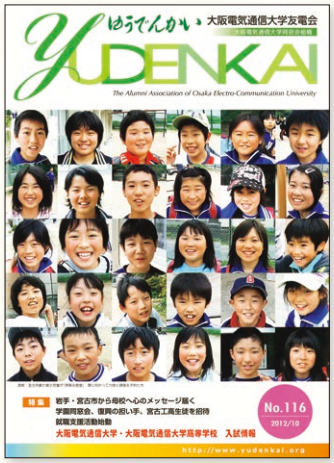
107号

111号

113号



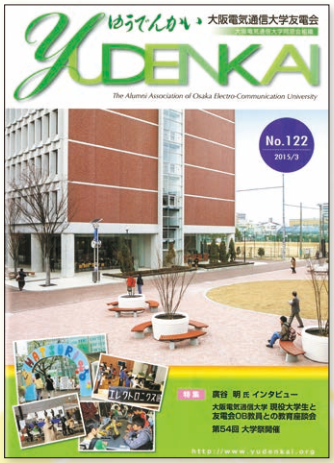
115号



116号

117号

120号



122号

130号

タブロイド版ゆうでん会 1号

タブロイド版ゆうでん会 2号

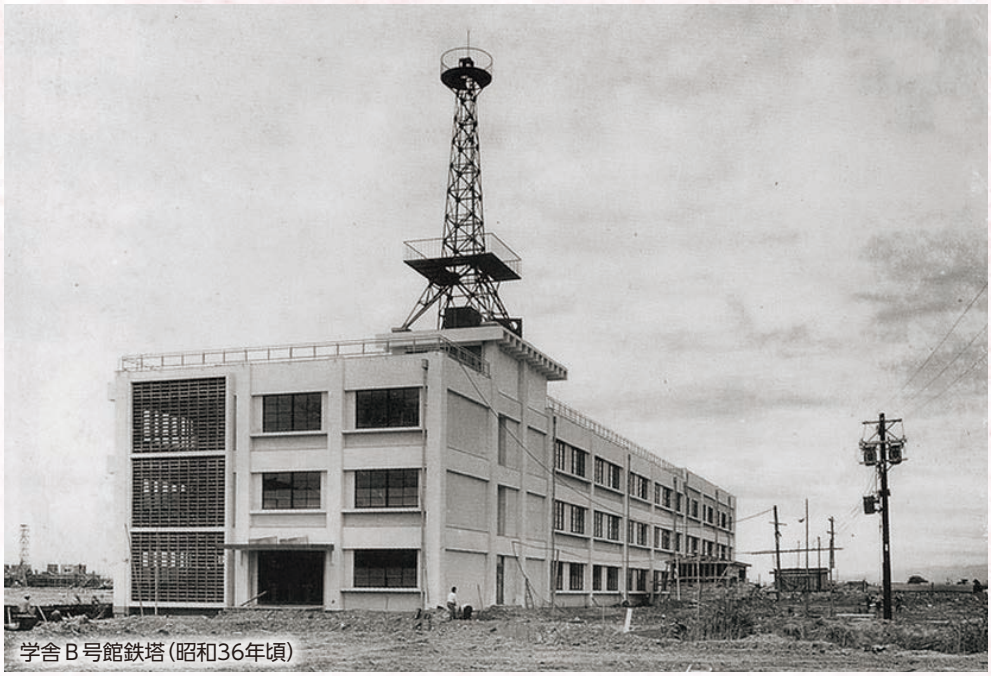
友電会55年の歩みを綴った会報「ゆうでんかい」は、全132号となった。また、昭和44年(1969)に「ゆうでん会」がタブロイド版で2号発行された。

校舎今昔

学舎Ｂ号館開学式（昭和36年頃）

寝屋川学舎建設時（昭和35年頃）

グラウンド（昭和36年頃）


学舎Ｂ号館鉄塔（昭和36年頃）

大学草創期時代の寝屋川市駅

大学草創期時代の寝屋川市駅２

創立間もない（昭和36年正門前で）

学舎Ｂ号館（昭和37年頃）

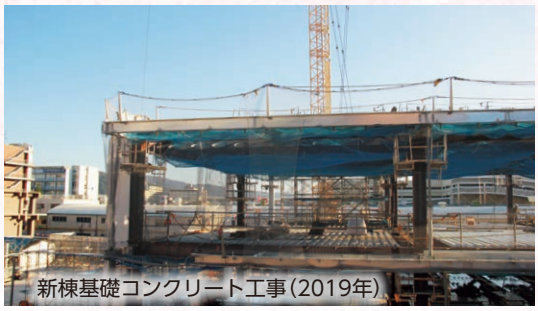
学舎空撮（昭和40年頃）

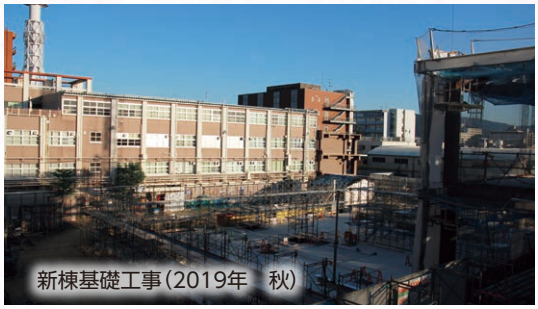
寝屋川市駅（昭和50年代）

学生ホールからみたM号館（2019年　夏）

58年前の松杭1200本出土（2018年）

2019年　夏


新棟基礎コンクリート工事（2019年）


新棟基礎工事（2019年　秋）

冬見納めとなる校舎（2019年）

Contents

ゆうでんかい

大阪電気通信大学・同窓会組織　友電会会誌

校舎今昔 …… 04

“大学発展に寄与!!”
友電会会長　福田　武 …… 07

学園100周年への提言
友電会理事･現広報部会長　水谷元也 …… 08

大阪電気通信大学友電会　令和元年度
「大阪電気通信大学友電会通常総会」報告 …… 09

令和元年度　大阪電気通信大学　緑樹会・クラブ同窓会・友電会
３団体合同懇親会 …… 10

大学支援事業　友電会の目的と事業 …… 11

55年の歩み …… 13

母校を支えるOB教職員　諸先輩からのメッセージ …… 18

北から南から …… 20

「学園創立80周年記念事業募金」～ご支援のお願い～
大阪電気通信大学学長　大石利光氏のご挨拶・お願い …… 22

2019年度(平成31～令和元年)　友電会　年間計画・事業報告 …… 23

新卒業生・新入生の皆さまへ
同窓会組織「友電会」の活動・事業の紹介 …… 24

～支部長メッセージ～　**卒業生の皆様へ** …… 26

支部組織活動報告 …… 28
■関東総支部／■東京支部／■神奈川支部／■東海総支部／■びわこ支部
■京都支部／■奈良支部／■大阪支部／■神戸支部／■九州支部

大阪電通大 第１期入学生「36会」 …… 39

令和元(2019)年度　**友電会支部の活動報告** …… 40

第42回(令和元年度)　**卒研室対抗ソフトボール大会開催** …… 42

表紙題字「ゆうでんかい」は　故 田崎秀夫　元学長著

ホームページ　http://www.yudenkai.org/

■ 会誌への投稿や事務局への連絡等は E-mail か FAXで
友電会事務局　FAX:072－824－1197
E－mail:yudenkai@yudenkai.org

2020年３月６日　第132号　創立55周年記念号

発 行 所／ 大阪電気通信大学友電会（大阪電気通信大学同窓会組織）
YUDENKAI　The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University
〒572-8530　大阪府寝屋川市初町 18 番８号
18-8Hatsu-Machi Neyagawa-City Osaka Japan 572-8530
(友電会直通) TEL：072-824-3111　FAX：072-824-1197
(大学代表)　TEL：072-824-1131　内線 3266
郵便振替番号　00990-5-49361
発行責任／ 友 電 会 会 長　福 田　武
編集責任／ 友電会広報部会長　水 谷 元 也
編　　集／ 小 林 守 正、山 下 友 彦、坂 手 宏 行、澤居比佐夫
資料提供／ 学校法人大阪電気通信大学、大阪電気通信大学事務局他
寄 贈 先／ 大阪電気通信大学関係先をはじめ他大学同窓会
並びに国立国会図書館逐次刊行物部、その他
印　　刷／ ダイコロ株式会社

大 学 学 章

電子工学・通信工学を中心とする大学の象徴として、原子内電子軌道を図案化したものをバックに、「大学」を白抜き文字で配置しています。 この純白は、清廉・潔白な人材の育成と、祈りと、希い(ねがい) がこめられています。

つなぐ知　かなえる技
学校法人 大阪電気通信大学
Osaka Electro-Communication University

学校法人大阪電気通信大学は、1941年の東亜電気通信工学校創立以来、高校・大学での教育を通して有為な人材を数多く輩出し、社会から高い評価を得てきました。

2016年度、初心に戻って本学園の基本となるビジョンを再確認するため、学園の果たすべき使命、それを実現するための心構え、到達すべき将来像を示した指針MV2(Mission,Value,Vision)を策定しました。

そして、2021年に学園創立80周年を迎えるにあたり、この指針の実現に向けて、学校法人大阪電気通信大学のアイデンティティをより明確にし、ブランド価値の向上を図るために学校法人大阪電気通信大学ヴィジュアル・アイデンティティ(VI)を制定しました。

母校のホームページ　大学紹介から引文しました

■編集後記

2019年度の大きな出来事と言えば、「戦争のなかった平成が終わり令和となった。」ことである。時代の節目であったと言える。

人生100年時代と言われる高齢化社会を迎え、さまざまな課題に対応する人工知能(AI)の開発が盛んになった。人災による悲劇を可能なまでに減少させる技術開発が期待できる。一方、台風や豪雨被害による天災が著しく多かった。異常気象が起こる背景にある地球温暖化対策は「まったなし」の緊急事態である。

SDGsは持続可能な開発目標と訳され、2015年９月、国連で国際社会共通の目標として、人間、地球及び繁栄のため17の目標が掲げられた。先進国も発展途上国も共に繁栄する社会建設のために、本気になる時がきたと言える。

日本で開催されたラグビーワールドカップは、見ている人に感動を与えた。これまでの単一チーム「ニッポン」が、多くの外国人を受け入れて作り上げたワンチーム「Japan」に、これからの日本の将来が見えていると思える。

1964年以来56年ぶりに開催される東京オリンピックは、多様性を身につけた「チーム日本」がどのようなパフォーマンスを披露してくれるかも楽しみの一つである。

奇しくも友電会は1965年、工学部初の卒業生124名を輩出し、同窓会「校友会遊電会」が発足した。以来卒業生は年々増え、2019年にはテクノロジーの総合大学(５つの学部と大学院)として52,000名を超えた。

友電会は創立55年を迎えた。友電会が、寝屋川・四條畷・駅前の３キャンパスで育った多様な見方・考え方ができるOBが結集し、飛躍することを期待したい。

“大学発展に寄与!!”

友電会会長　福田　　武

新卒業生・新入学生の皆さん、卒業・入学おめでとうございます。

同窓会「大阪電気通信大学友電会」を代表してお祝い申し上げます。

友電会は、昭和40年第１期生卒業以来56年目を迎え、会員は約５万２千人となっています。本会は会員相互の親睦を図り、同窓の絆を強めるとともに、大学と密接に連携しながら、大学の発展に寄与し、母校の輝かしい伝統を継承していくことにあります。

会員は、国内はもとより海外においてもITや医療福祉分野を始め、技術、経営、行政及び教育等あらゆる分野で活躍しています。また、支部は関西・関東を中心に16支部あり、それぞれが講演や見学等の研修会及び地域社会への貢献活動を行っています。

大学は、学校経営の取り巻く厳しい環境の中、学園として80周年を前に改革を進めており、本会も30数年来の念願であった「一般社団法人」を目指して、昨年の12月には当法人を登記しました。いよいよ本年4月に法人として移行を計画しています。そして友電会は、新たな法人組織として大学の発展に寄与できることを期待しています。

本部では、毎年６月に「通常総会・懇親会」を開催し、会員はもとより恩師の先生方も多数参加され、友好を深めています。学内ではソフトボール大会の開催、クラブ活動の支援、学習の研究・制作の表彰及び各種寄贈等、学生に対する支援を推進しています。

新卒業生の皆さん！

卒業後は社会の一員として、各方面で活躍されることと思いますが、電通大出身であることに誇りをもって活躍していただきたいと思います。我々は同種業界にあって、お互い同窓であることを認識しないままの出会いが多くあります。本部・支部の活動や大学が主催するホームカミングデイ（卒業生の集い）に参加していただき、互いに同窓の絆を確かめる場として、また情報交換の場として活用していただければと思います。

新入学生の皆さん！

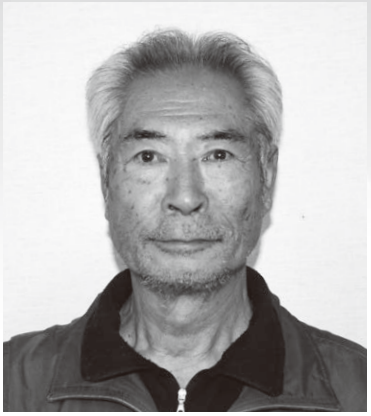
皆さんが有意義で、のびのびと勉学に励むことができ、また学生生活の良い思い出ができるような環境作りを支援しています。

会が主催するソフトボール大会では多数の学生、先生及び職員の方々が参加し、大いに盛り上がり、楽しんでいただいています。また「なわてん」（総合情報学部卒業研究展）はじめ各学科の４年間の学習の研究・制作に対し、またSPI（入社試験で利用される適性検査）や学生が出展する「東京ゲームショウ」等にも応援しています。

皆さんが安心して学べるように「各種奨学金制度」や、昨年から「給付奨学金制度」も設けていますので、大いに活用していただきたいと思います。

今後とも、皆さんが有意義な学生生活が送れるような事業、支援活動を展開しますので、ご期待ください。

学園100周年への提言



友電会理事・現広報部会長　水谷元也

今日情報化社会のトレンドから推測できる経済現象は推測が難しく、視界不良の世の中である。複雑で即断即決・自己の能力と責任が問われる時代です。

スマホに代表される情報ツールで取捨選択した情報を基に、分析・判断することで自らの課題を他の助けなしで解決できる醍醐味がある一方、本当の解答・結果は、「謎」－検証の方法は迷路です。

AI（人工頭脳）の搭載された各種の機器（仕掛けにより数値データはビッグデータとして蓄積される）、利便性の良い機器は、個人情報のザルになる恐れや製作者の意図もあり、安心できない。

結局は、使用者の能力、分析、判断、利用内容の理解レベルで利用範囲が激変する。

それらのスキルを身につけ、健全で安心できる社会生活を送るための知識と環境が本学園には多くの手がかりがあり、向学心・技術的探求心を満足する最適な環境を有し、自ら学ぶモチベーションの場となり得る。

CIT（インターネットによるコミュニケーション技術）の時代に学園はフルに機能し、学問的サポート体制と教育環境が整備され、具体的には、

⑴ 在学生には、造形先端技術加工センターでの３Dプリンタやプラズマ切断機、他に３Dキャドシステムの建築設計の設備があり、インターネット環境で充実した実習・実学の場が保証されている。

⑵ 卒業生には、学び直しのリカレント教育（循環教育）のプログラムを検討し、実施計画を提案する。

⑶ リタイアしたシルバーには、ACP（アドバンス・ケア・プラニング）人生会議・リフレッシュ教育を検討する事を期待したい。

⑷ 未来の為の投資・社会貢献として、駅前学舎を利用し、ｅスポーツの専門常設スタジオがあり、競技会場や小中学生対象の電子工作教室（ロボット等制作・操作テスト）が企画され開催される。

戦略的TCT（Time Compression Technologyの略）教育メソッド（教育方法）として駅前学舎を広く社会に開放する時!!

社会をよくする「リビングラボ」技術開発の拠点として注目、全員参加型憩いの多目的・多機能ラボとして、学園学舎のフレキシブルな活用・運用に期待を持って提言します。

大阪電気通信大学友電会

令和元年度「大阪電気通信大学友電会通常総会」報告

福田武会長のあいさつ

令和に改元された節目の年、友電会福田武体制は、3年目を迎えました。

友電会総会は、2019年6月22日(土)、母校四條畷キャンパスにおいて「新たな時代へ」をテーマに開催しました。会員の皆様には、四條畷キャンパスの特色を肌で感じていただこうとの趣旨で母校総合情報学部教授から「eスポーツ」に取組む大学教育を紹介いただきました。

また、3団体合同懇親会では、現役学生たちの「今日的主体的な活動」についてリレー・トーク形式で熱い想いを語ってもらいました。

遅い梅雨入りで天候を心配しましたが、曇天の中80名を超える友電会員が、母校四條畷キャンパスに集まりました。午前の部は、クラブ同窓会総会、全国支部長会、友電会理事会が開催されました。午後は、友電会通常総会を開催し、2018年度事業報告および収支決算報告、2019年度事業計画案および収支予算案が可決されました。

また、母校の退職教職員でつくる緑樹会年次報告会が開催されたり、軽音楽部OB会が開催されるなど、四條畷キャンパスは賑やかな1日となりました。

◆通常総会場の様子

第1号議案から第7号議案までが審議、承認されました。

通常総会の様子

会長と副会長

神山議長と中田事務局長

◆記念講演会

いしぜきひでゆき教授の記念講演会が開催され、母校におけるeスポーツの取り組みが紹介されました。母校には、eスポーツをたのしみたい学生と教育の立場から学生をバックアップする教授スタッフがいます。そのプロジェクトの先端を担う学生起業家が出演してくださいました。eスポーツをメジャーな競技に育てたいという熱い想いが会場に集まった私たちに伝わってきました。四條畷キャンパスから発信される情報から目が離せません。

大学の取り組みを紹介するいしぜき先生

立ち上げた会社について説明する山口勇さん(4回生)

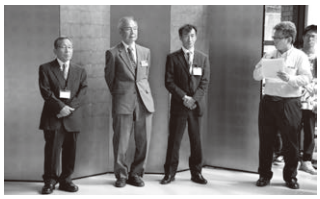
令和元年度　大阪電気通信大学 緑樹会・クラブ同窓会・友電会 3団体合同懇親会

◆3団体合同懇親会

3団体合同懇親会(緑樹会、クラブ同窓会、友電会)は、大勢の大学関係者もご出席いただき盛大な会となりました。来賓を代表して大石利光理事長・学長先生にご挨拶していただきました。母校を卒業後、そのまま母校に残り研究生活や職員として経験を重ねてこられた方々の紹介と披露をさせていただきました。副学長に新川拓也様、学務部長に柴垣佳明様、学事部長に早野秀樹様、四條畷事務部に小池達男様には登壇いただき、友電会からお祝いの花束をお贈りしました。皆様の益々のご発展を祈念致します。

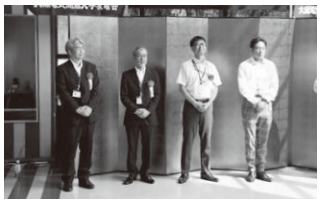
大石利光理事長・学長のあいさつ

開会宣言する小松周治事業部会長


3団体代表のあいさつ

吹奏楽団のオープニング演奏

乾杯の発声をしていただいた都倉先生


母校の発展に貢献する友電会OBで大学に勤務する教職員の皆さん

◆学生サークルの取り組み紹介

「現役学生たちの今」を紹介するDVDビデオの放映、日ごろ見ることができない学部の取り組みやサークル活動を紹介するコーナーを懇親会で持たせていただきました。当日集まった多くの友電会会員の過ぎ去ったあの頃とは違う「今」を生きる学生の姿を見ていただけました。

主体的活動を紹介する学生サークルの学生たち

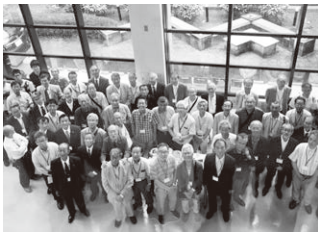
◆懇親会風景

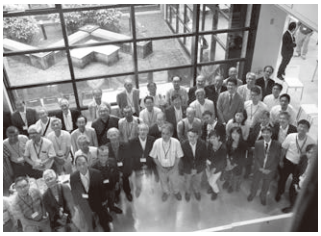
友電会会員や教職員OBの皆さんに混じって準会員の学生サークルが参加し、懇親を深めました。寝屋川キャンパスの新校舎建築のためポプラを伐採(会誌130号で紹介)した建築学部のプロジェクトにはOBが熱心に学生と話す場面が見られました。

令和になって初めての総会から懇親会に及ぶ一日は、記念撮影後閉会しました。

友電会は、2019年度末には一般社団法人として「新たなスタート」を切る予定です。多くの方々とのつながりを大切にし、時代に即した同窓会組織として社会的な使命を果たすべく邁進していきたいものです。

懇親会を楽しむ参加者の皆さん




参加者との合同写真

大学支援事業

友電会の目的と事業

目的を達成するため、友電会は、奨学金制度を設置し準会員の支援を行ってきました。

本会は大阪電気通信大学と緊密に連繋を保持し、その発展に協力し会員相互の親睦と研修を図ると共に教育、学術、文化の発展に寄与することを目的とする。（友電会定款　第２章　第４条）

1 貸付奨学金制度

友電会では後援会と共同して出資し、この基金財源として「後援会・友電会貸付奨学金制度」を設けています。これは本学の大学院・学部の学生で経済的理由により修学困難なものに学資を貸与して、学業を継続させることを目的としたものです。

2 短期貸付制度

短期貸付制度は、下宿学生が修学および学生生活維持のため一時的あるいは緊急に資金を必要とする場合に、願い出により30,000円を限度として、所定の金額を短期間（３ヶ月以内）無利子で貸し付けて援助するものです。

3 給付奨学金制度

この制度は、2019年度から運営を始めました。大阪電気通信大学の２年生以上の学部生で、大学の発展に寄与し貢献する者に対し、給付奨学金を与え、その活動を奨励することを目的とするものです。

初年度は、⑴大学認定の課外活動等に取り組んでいる者、⑵累計の成績が学年上位50%以上の者、⑶大学の他の給付奨学生あるいは学費免除者でないこと等を選考基準として5名の学生に支給しています。

奨学生からの感謝の手紙

大学の部活動は、毎週の部活動のほか、OBさんとの交流や地域の小学校に出向いて競技を指導する活動などがあり、大変充実したものでした。しかし、部活動の費用や、また私は一人暮らしをしておりますので、その生活費をアルバイトで賄おうとすると、大学の授業がおろそかになってしまいがちです。3年生に進級するにつれ、活動を運営し事務を担当するなど、部活動に参画する場面も多くなりました。時間的にも経済的にもタイトな生活を送ることとなり、こういった理由から途中で退部する者も多くいました。幸いにも、私は友電会奨学金の選考に合格することができました。奨学金で生活に余裕ができましたので、部活動のほか日々の講義やレポートに熱を入れることができ、おかげさまで今年度の学業優秀賞を取得できそうな勢いとなりました。友電会奨学金が、文武両道の生活という形で私の生活を潤していただけたこと、大変感謝しております。　M

私は交通費や昼食代、資格などの費用その他諸々を自費で払っています。さらに日本学生支援機構の奨学金を少しでも返済するために貯金していたので、娯楽には極一部しか使っていませんでしたが、かつかつの生活でした。

４回生になって就活は早々に終わり、授業もなくなり少し時間に余裕もできたので、アルバイトを週５で入っていました。なので、研究室には週２くらいしか行かず、遊びにもたまにしか行けていませんでした。また、音響研究会部で作製中だったスピーカーも少しずつしか作製できない状態でした。

そんな時に友電会の給付型奨学金の話がメールできました。ダメもとで申し込んだ結果、今まで行ってきた常任自治委員会や音響研究会での成果や学業の成績などを認めていただいて、見事いただくことができました。

月３万円いただけるのは、４年間の学費に比べれば極一部かもしれませんが、かなり貴重でした。そのおかげで少し余裕ができたのでバイトの日数を減らすことができ、研究室に行く日数も増え、スピーカーも完成させることができました。最後の学生生活である１年を少しでも余裕のある年にできたのも友電会の給付型奨学金のおかげだと思い感謝しています。　H

友電会から給付型奨学金をいただけたことによってアルバイトの日数を減らすことが出来ました。そのため、授業に集中することが出来、テスト勉強にさける時間が増えました。４年生で卒業研究が忙しくアルバイトが出来る時間が少なくなりましたが、友電会の給付型奨学金のおかげで授業料の支払いが出来ました。無理をしてアルバイトに入らなくてもよくなり、体を壊すことなく卒業研究も無事終わりました。部活動に所属し、アルバイトで部活動を休む時もありましたが、給付型奨学金のおかげで部活動に行ける日数が増え、最後の試合に出場することが出来ました。友電会の給付型奨学金のおかげでアルバイトがメインだった生活が、４年生になり勉強や部活動、卒業研究など、自分のやりたいことが出来る時間を作ることが出来ました。

社会で活躍することが支援してくださった友電会への一番のお礼になると考えております。感謝の気持ちを胸に、これからも努力を重ねていきたいと思います。　N

私は大学進学をきっかけに一人暮らしを始めました。一人暮らしには何かとお金が必要でした。両親にこれ以上迷惑をかける訳にはいかないので、バイトで何とかやりくりしていました。バイトを優先する生活では勉学、クラブ活動にかける時間が少なくなり、勉学に集中できず試験も思うような結果が得られませんでした。

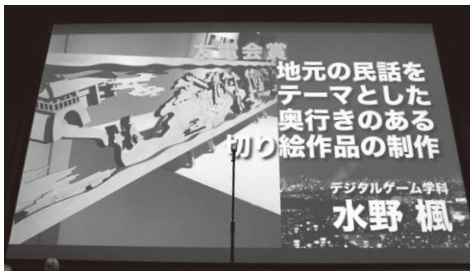
友電会の給付型奨学金をいただくようになってからは勉学、クラブ活動に時間をかけられるようになり、充実した生活を送ることができています。

友電会の皆様、本当にありがとうございました。この奨学金を有意義に使わせていただき、この先の大学生活を充実させ、夢を叶えられるように邁進していきたいと思います。　MT

4 学部・学科卒業研究に対する表彰制度

友電会ではこれまで一部学科の教育・研究を支援することを目的とし、「友電会賞」を設け優れた研究・作品を発表した学生を表彰してきました。

2019年度からは、すべての学部学科(５学部15学科)に対し、卒業研究・制作、他の教育助成を目的とした制度を設置しました。



55年の歩み

■1965年度(昭和40年度)
・大学工学部初の卒業生(電子93名、通信31名)
・大学卒業生の同窓会組織「大阪電気通信大学学友会」創設(同年「大阪電気通信大学友電会」に改称)
・初代学友会/友電会会長に岡部信郎氏が就任
・会報第１号「遊電会(愛称)」を発刊、１期生名簿を整備
・第１回友電会総会成立、第１回懇親会開催

■1966年度(昭和41年度)
・総会開催
・会報第２号「友電会」を発刊
・ブラスバンド委員会を後援(学生自治会歌「燕翼歌」が完成)
・友電会会長ほか役員辞任(友電会活動空白化、その後再建委員会が発足)

■1967年度(昭和42年度)
・友電会再建委員会による新役員会成立
・第2代友電会会長に再建委員長の松本圭右氏が就任
・学生学術交歓隊の欧州12カ国訪問を支援

■1968年度(昭和43年度)
・全会員名簿(ファイル形式)が完成
・友電会総会を学部で開催
・友電会新聞「ゆうでんかい第１号」を発刊
・友電会シンボルマーク"電子軌道のマーク"を制定(この年から卒業記念品としてシンボルネクタイピンを贈呈)
・大阪電気通信大学大学歌「浪速の東」が制定

■1969年度(昭和44年度)
・友電会新聞「ゆうでんかい第２号」を発刊
・友電会総会を大阪市内で開催(不成立で懇親会に変更)
・３学科初の卒業生(電子物性工学科49名、電子機械工学科49名、経営工学科53名)

■1970年度(昭和45年度)
・友電会総会を開催
・第１回東西電気通信大学"電電戦"を後援

■1971年度(昭和46年度)
・友電会総会を開催
・淀都大学リーグに母校の加盟を支援、淀都４大学戦に体育会が参加

■1972年度(昭和47年度)
・友電会総会を開催
・「卒業生代表の学校法人評議員に関する見解」を校友会と合同で母校理事会に表明

■1973年度(昭和48年度)
・友電会拡大評議員会を開催、友電会新定款を制定
・友電会総会を大阪市内で開催
・第３代友電会会長に宮本公明氏が就任
・大学祭期間中にOBと学生との懇談会を開催、延べ400名の参加者をみた
・学校法人評議員に友電会代表を初めて選出(３名、任期２年)

■1974年度(昭和49年度)
・友電会関東支部/当時名称は東京支部を設立(創立総会に約100名が出席、その後関東総支部と発展)
・会誌「ゆうでんかい」を復刊(第３号/A４版タイプ印刷)
・友電会関東支部が支部名簿と支部新聞１号発刊

■1975年度(昭和50年度)
・会誌「ゆうでんかい」第４号を友電会創立10周年記念号として発刊(会員数約7,000名)
・母校２学科新設にて学園整備募金に協力
・将来の支部設立に備えて支部設置規定を制定

■1976年度(昭和51年度)
・友電会総会を大阪市内の科学技術センターで開催
・友電会法人化(仮称、大阪電気通信大学工学振興会)を決議
・会誌「ゆうでんかい」第５号発刊(A４版、150頁の増大号)
・母校定年者の慰労会を教職員の有志会と共催、毎年継続

■1977年度(昭和52年度)
・会誌「ゆうでんかい」第６、７号発刊(現在の会誌の形態)
・友電会総会を学部で開催
・大学祭時に「第１回エレクトロニクス展」を企画共催
・就職講演会を開催(卒研生向け)
・「国際化に立脚した母校の将来を語る」座談会を学長他を迎え主催
・友電会と母校電子工学科共催で学術講演会(コンピュータ言語)を開催
・第１回友電会杯卒研室対抗球技大会(ソフトボールを通じた卒研室交流制度)発足
・学校法人評議員の友電会枠が増枠、代表５名

■1978年度(昭和53年度)
・第４代友電会会長に会長代行の中西義一氏が就任
・友電会総会を大阪駅前阪神百貨店で開催、約200名が参集
・会誌「ゆうでんかい」第８、９、10号を発刊し、年３回以上の発行を体制確立
・海外教育研修制度を導入(入学時に積み立て加入、３回生の約１月、カナダのブリティシュ・コロンビア大学に短期留学の制度)
・学生部と共催「第１回OBによるリクルート講演」(講演・就職相談を年３回開催、学生に大好評で継続)
・無利息の在学生短期貸付制度を発足
・「友電会ハムクラブ」設立

■1979年度(昭和54年度)
・友電会総会を大阪駅前阪神百貨店で開催、約150名が参集
・会誌「ゆうでんかい」第11、12、13号を発刊
・大学祭に来学の会員の為に「第1回友電会サロン」を学内に開設(親睦パーティーを開催し、恩師と学生を含めて70名が交流)
・２学科初の卒業生(精密工学科121名、応用電子工学科123名)
・学校法人評議員の友電会代表枠が減枠、代表４名

■1980年度(昭和55年度)
・会誌「ゆうでんかい」第14、15、16、17号を発刊。年４回発刊

・友電会創立15周年記念「全会員名簿」を発刊、会員数10,000名超
・創立15周年記念総会を大阪市内の東洋ホテルで開催、約200名が祝典と懇親会に参集、講師に高田好胤薬師寺管長を招き、記念講演を開催
・友電会「ハムクラブ」主催で「第１回ハムコンテスト」開催
・第１回海外教育研修団出発。63名の学生が参加

■1981年度(昭和56年度)
・法人化積立金2,000万円達成
・友電会総会を大阪駅前阪神百貨店で開催
・会誌「ゆうでんかい」第18、19、20、21号を発刊
・友電会東海支部設立、第１回総会を名古屋で開催
・学校法人評議員の代表増枠、代表５名

■1982年度(昭和57年度)
・会誌「ゆうでんかい」第22、23、24号を発刊
・友電会総会を大阪駅前阪神百貨店で開催、約150名参集
・友電会中国支部設立、第１回総会を広島で開催
・友電会法人化原案を提示

■1983年度(昭和58年度)
・会誌「ゆうでんかい」第25、26、27号を発刊
・友電会総会を学内で開催、法人準備の会費(法人入会金)募集開始
・後援会と協調出資で、在学貸付奨学金制度を発足
・学校法人新評議員に友電会代表５名を選任

■1984年度(昭和59年度)
・会誌「ゆうでんかい」第28、29、30号を発刊
・友電会総会を学内で開催
・カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学よりUBS学生研修団が来学、友電会の案内で関西の電子産業を見学(ABC、NHK、新聞で報道)
・顧問弁護士、公認会計士の選任
・東海支部「ハムクラブ」発足

■1985年度(昭和60年度)
・友電会総会を学内で開催
・第５代友電会会長に臼井宏氏が就任
・会誌「ゆうでんかい」第31、32、33、34号を発刊
・同窓会関東事務所を開設
・友電会創立20周年記念「全会員名簿」を発刊
・学校法人評議員に友電会代表４名を選任、この内１名が評議員の互選で選出され、大学卒業生初の学校法人理事が誕生

■1986年度(昭和61年度)
・第６代友電会会長に中橋克征氏が就任
・会誌「ゆうでんかい」第35、36、37、38号を発刊
・「母校の現状と未来を語る」をテーマに理事長、学長等母校役員との座談会を開催
・「母校の教育・研究のあり方」をテーマに会員の他大学の先生、母校の先生との座談会を開催
・「母校に対する提案、後輩のために」をテーマに新卒業生、大学院生による懇談会を開催
・卒業謝恩パーティーを後援(前年度までは卒業記念に会のシンボルネクタイピン贈呈)

■1987年度(昭和62年度)
・会誌「ゆうでんかい」第39、40、41、42号を発刊
・母校創立25周年記念友電会総会を大阪駅前ヒルトンホテルで開催、約310名が参集
・四條畷キャンパスの開校を祝い、母校の創立25周年記念募金に全面的に協力
・母校の創立25周年記念誌「翔ぶ」の編集企画に全面的に参画
・同窓会東京事務所(友電会関東支部事務所)を開設
・海外教育研修制度の報告誌「心のカナダ」を発刊
・第１回友電会長杯ゴルフコンペを開催
・校友会、友電会合意推薦により、学校法人に大学卒業生初の学識経験理事が誕生
・学校法人評議員委嘱任期は３年、５名

■1988年度(昭和63年度)
・会誌「ゆうでんかい」第43、44、45号を発刊
・友電会総会をJRターミナルホテルで、母校創立25周年記念パーティーを兼ね開催
・「母校の発展」をテーマに、校友会と共催でパネルディスカッションを開催

■1989年度(平成１年度)
・会誌「ゆうでんかい」第46、47、48号を発刊
・友電会総会を大阪駅前大阪ヒルトンホテルで開催、母校創立25周年記念パーティー兼「大阪電気通信大学クラブOB会」の設立総会として合同開催、約600名参集
・海外教育研修制度10周年を記念し、カナダ現地で謝恩パーティー共催
・友電会支部長会を制度化し、第１回支部長会を開催

■1990年度(平成２年度)
・会誌「ゆうでんかい」第49、50号を発刊
・友電会創立25周年記念総会をフェリー/ニューペガサス(１万トン)を貸切で大阪湾クルージング、会員家族と関係者を含め840名参集
・創立記念25周年「全会員名簿」を発刊、会員数約20,000名、従来の50音順、研究室別に加え、クラブ別、地区別の索引を設ける
・創立25周年を記念して、OBが勤務・経営の企業を対象に、在学生とOB、OB相互のコミュニケーションを図る情報誌「活躍する大阪電通大OB」を創刊
・同情報誌の発刊を記念して、記念講演会・パーティーを開催
・雑誌掲載の企業に在籍のOB約200名と学生約100名(主に4回生)出席

■1991年度(平成３年度)
・会誌「ゆうでんかい」第51、52、53、54号を発刊
・母校創立30周年記念友電会総会を企画、JRの列車を貸切ミステリー列車「大阪電通大号」として運行、目的地の近江舞子まで、約400名が列車に同乗し総会懇親会に参集
・第15回記念の卒研室対抗球技大会を開催
・母校学園創立50周年記念事業に参加。寄付金及び記念品(時計)贈呈

■1992年度(平成４年度)
・会誌「ゆうでんかい」第55、56、57、58号を発刊
・友電会総会を学内(四條畷キャンパスプラザ園遊会形式)で開

催、約300名
・母校緑化運動、当日記念植樹(四條畷体育館前にしだれ桜を植樹)
・寝屋川キャンパスで福利厚生施設の建設着工
・東海支部が５年ぶりに総会開催
・関東支部に「茨城ブランチ」発足
・「新潟支部」および「びわこ」支部発足
・大学院(前期課程)第１期生が誕生

■1993年度(平成５年度)
・会誌「ゆうでんかい」第59、60、61、62号を発刊
・「OB企業と学生との交流会」を寝屋川キャンパスで、３日間にわたり開催、OB160名、４回生と短大２回生を中心に延べ300名が参加
・淀都５大学戦終了、第30回記念大会(母校主催を後援)有終の美を飾る
・P号館横に友電会福利施設「WING(カフェレストラン)」完成
・友電会総会はWING竣工を記念し、学内で開催、約300名が出席、WINGは母校に寄贈
・第５回記念支部長会「奈良支部」「石川支部」発足

■1994年度(平成６年度)
・会誌「ゆうでんかい」第63、64、65大震災特集号を発刊(１号分を休刊し、資金を阪神大震災の義援金とする)
・友電会総会を大阪市内のリーガロイヤルNBCで開催、約200名参集
・情報誌「'94活躍する大阪電通大OB」連続観光５年目を迎える〔阪神淡路大震災関係〕
・「ゆうでんかい」５号は、会員、在学生、教職員の被災状況等について掲載
・被災学生を対象に特別奨学金(被災した学生19名に特別奨学金15万円ずつ)を贈った

■1995年度(平成７年度)
・創立30周年を迎え、会員数25,000名(大震災に鑑み式典は取りやめ)
・会誌「ゆうでんかい」第66、67、68号を発刊
・友電会総会は大震災を鑑み自粛、母校寝屋川キャンパスで交流会として開催
・「姫路支部」発足
・支部長会、年２回開催に発展
・「友電会JCBカード」を設定、カード会員募集開始

■1996年度(平成８年度)
・友電会30周年記念総会開催
・会誌「ゆうでんかい」第69、70号を発刊
・友電会30周年記念「全会員名簿」を発刊
・第20回記念卒研室対抗ソフトボール大会を開催
・パソコン通信による「大阪電通大・友電会ネットワーク」サービスを開始
・「神戸支部」発足

■1997年度(平成９年度)
・友電会総会を母校四條畷キャンパスで開催
・会誌「ゆうでんかい」第71、72、73号を発刊
・大学祭時に著名ゲームクリエーターによる「パネルディスカッション」を開催、学祭実行委員会と共催、約1,000名参集

■1998年(平成10年度)
・友電会総会を神戸シーパル須磨で開催
・第７第友電会会長に中西義一氏が就任
・会誌「ゆうでんかい」第74、75、76号を発刊
・学生向けワンルームマンション友電会「飛燕寮」の建設に着手
・「静岡支部」発足

■1999年度(平成11年度)
・友電会総会を母校寝屋川キャンパスで開催
・同窓会21世紀記念事業委員会(湯場崎直養委員長)が発足
・会誌「ゆうでんかい」第77、78、79号を発刊
・友電会「飛燕寮」竣工(完成と同時に40室が満室)
・情報誌「'99活躍する大阪電通大OB」(第10号)を発刊
・友電会独自の公式ホームページを開設
・母校の大学院博士課程を修了した初めてのOB教員が誕生

■2000年度(平成12年度)
・創立35周年を迎え、会員数30,000名超
・友電会総会をヒルトン大阪で開催
・第８代友電会会長に中山　修氏が就任
・情報誌「2000活躍する大阪電通大OB」(第11号)発刊
・「三田支部」発足
・カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)に友電会海外語学研修21回目派遣。21世紀最初を記念し、式典をUBCと共催、南学長、中山会長はじめ関係者が参加
・会誌「ゆうでんかい」第80、81、82号を発刊

■2001年度(平成13年度)
・友電会総会をびわ湖岸の明日都浜大津OPAで開催
・懇親会はびわ湖上で外輪船「ミシガン」を借切って開催
・友電会・同窓会21世紀記念事業委員会から母校学園21世紀記念事業へ１億円を募金
・３同窓会合同イベントを四條畷学舎駒見ホールで開催、学生クラブ演奏と速水けんたろうコンサート
・大学のベンチャービジネスのタネ着想コンテストに友電会やOB企業も協賛
・同窓会21世紀記念事業委員会が、母校へ100万円寄贈
・学生団体・顧問・クラブOB・後援会との交流会を共催、クラブ活動援助
・日本ファジィ学会の「第１回ファジィ･誘･サロン」に学術交流の一環で同窓会として協賛し参加
・会誌「ゆうでんかい」第83、84、85号を発刊
・友電会全会員名簿を発刊(大学創立40周年・友電会創立35周年記念)

■2002年度(平成14年度)
・友電会総会を四條畷キャンパスで開催
・懇親会は友電会・緑樹会・後援会が合同し、KONAMI HALLで開催
・びわこ支部総会で近隣支部協調の試みとして京都支部との合同懇親会を石山寺で開催
・京都支部は日本知能情報ファジィ学会に協賛、学術交流的支部活動を目標
・友電会が母校21世紀記念事業の一環として寄贈した四條畷学舎の時計塔が完成
・会誌「ゆうでんかい」第86、87、88号を発刊

■2003年度(平成15年度)
・友電会総会を守口ロイヤルパインズホテルで開催、４同窓会合同懇親会を同ホテルで開催
・クラブOB会が「クラブ同窓会」と改名し、再スタート(会長猿渡洋氏)
・定款・内規改訂検討、法人化検討、同窓会連合化検討、支部活性化検討、申請友電会創造の５委員会が会長に答申
・５委員会を発展集約させ、新生友電会構想委員会を発足
・会誌「ゆうでんかい」第89、90、91号を発刊

■2004年度(平成16年度)
・友電会創立40周年。会員数は35,000名超
・友電会総会を四條畷キャンパスで開催、医療福祉工学部長吉田正樹教授の講演会を併催
・新生のクラブ同窓会総会に協調、緑樹会・クラブ同窓会・友電会合同の懇親会を開催
・クラブ同窓会に協賛、学生部後援で活躍する学生14クラブ・団体を表彰
・会誌「ゆうでんかい」第92、93、94号を発刊

■2005年度(平成17年度)
・友電会総会を母校高宮キャンパスで開催
・３団体合同懇親会を寝屋川キャンパスの中庭で開催
・「茨城支部」、12年ぶりに復活
・会誌「ゆうでんかい」第95、96、97号を発刊
・「新生友電会推進委員会」が発足
・JR福知山線快速電車の脱線事故で母校学生２名の尊い命が奪われる

■2006年度(平成18年度)
・会誌「ゆうでんかい」第98、99、100号を発刊
・第９代友電会会長に羽渕完俊氏が就任
・友電会総会を大阪弥生会館で開催
・友電会杯卒研室対抗球技大会は30周年を迎えた

■2007年度(平成19年度)
・会誌「ゆうでんかい」第101、102、103号を発刊
・友電会総会を母校高宮学舎と寝屋川学舎で開催
・３団体合同の懇親会は、千代田食堂跡地に完成した学生ホールで開催

■2008年度(平成20年度)
・会誌「ゆうでんかい」第104、105、106号を発刊
・寝屋川キャンパスに新しい学舎が完成
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催

■2009年度(平成21年度)
・会誌「ゆうでんかい」第107、108、109号を発刊
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催
・友電会創立45周年を迎え、友電会員数は40,000名超

■2010年度(平成22年度)
・会誌「ゆうでんかい」第110、111号を発刊
・第10代友電会会長に猿渡洋氏が就任
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催
・「九州支部」13番目の支部が発足

■2011年度(平成23年度)
・会誌「ゆうでんかい」第112、113、114号を発刊
・友電会総会を母校駅前キャンパスで開催
・東日本大震災の被災地、岩手・宮古市へ学生ボランティア隊を派遣

■2012年度(平成24年度)
・会誌「ゆうでんかい」第115、116、117号を発刊
・友電会総会を大阪駅前ホテルグランヴィア大阪で開催
・大学の正規授業にOB講師５名を派遣
・大学関係者、OB企業家を迎え起業家クラブ発足へ(起業家同友会へ発展)

■2013年度(平成25年度)
・会誌「ゆうでんかい」第118、119号を発刊
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催

■2014年度(平成26年度)
・会誌「ゆうでんかい」第120、121、122号を発刊
・友電会創立50周年記念で第３代友電会会長宮本公明氏講演「米国のから見たビジネス界から見た日本の課題」
・第11代友電会会長に池本善一氏が就任
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催

■2015年度(平成27年度)
・会誌「ゆうでんかい」第123、124号を発刊
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催
・カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)に35回目の教育研修派遣

■2016年度(平成28年度)
・会誌「ゆうでんかい」第125、126号を発刊
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催
・第12代友電会会長に福田武氏が就任
・友電会創立50周年記念品「80インチ４Kテレビ」を２キャンパスに寄贈
・「大阪支部」が発足

■2017年度(平成29年度)
・友電会総会を四條畷キャンパスで開催
・会誌「ゆうでんかい」第127、128号を発刊
・「東京支部」が発足
・第40回友電会杯卒研室対抗球技大会の開催

■2018年度(平成30年度)
・会誌「ゆうでんかい」第129、130号を発刊
・友電会総会を母校寝屋川学舎で開催
・友電会の一般社団法人化を評議員会で承認

■2019年度(令和１年度)
・会誌「ゆうでんかい」第131、132号を発刊
・友電会総会を四條畷キャンパスで開催
・準会員に対して給付型奨学金制度を制定
・一般社団法人大阪電気通信大学友電会として法務局に登記申請受理
・友電会創立55年、会員数は52,000名超

1968年度（昭和43年度）

友電会のシンボルマーク制定「電子の雲」

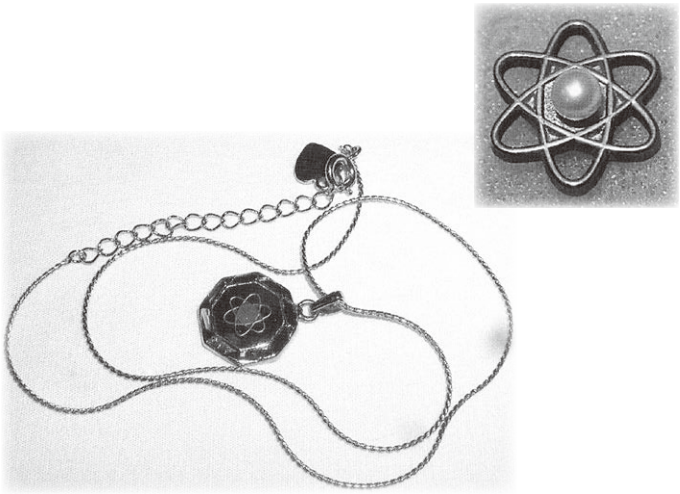
学友会として発足した同窓会は、愛称の友電会を正式名称に決定し、同時にシンボルマークを制定した。

母校の学章、飛燕をモデルに「中心に真珠（原子核）」をおき、そのまわりをめぐる「３本の銀の楕円（原子雲）で囲んだ」マーク

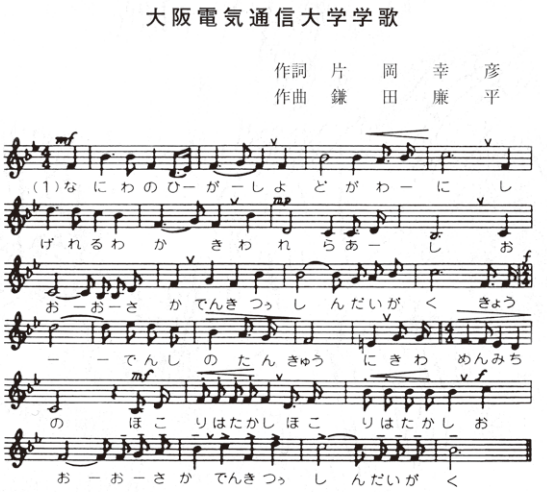
友電会シンボルマークは、昭和43年より卒業記念品のネクタイピン（正会員証）として進呈された。

その後、女性会員の増加によって、男性はタイタック、女性はネックレスに替わった。

現在では、卒業パーティーを援助するお祝い金へと変遷した。



大阪電気通信大学学歌「秘話」



一
浪速の東淀川に
茂れる若きわれら葦
おお大阪電気通信大学
今日電子の探求に究めん道の
誇りは高し　誇りは高し
おお大阪電気通信大学

二
稲穂波立つ河内野に
ゆうゆう高き鉄塔よ
おお大阪電気通信大学
われら時代の先端を荷負う未来に
責任重し　責任重し
おお大阪電気通信大学

三
宇宙をひらくわれら意気
世界にひびくその名こそ
おお大阪電気通信大学
愛と真理と理想とに明日の平和の
門を開かん　門を開かん
おお大阪電気通信大学

「浪速の東淀川に茂れる若きわれら葦…」で始まる母校の大学歌は、昭和43（1968）年に制定された。現在、公表されている作詞者としては本学ブラスバンドと明記されているものが多いが、一部に「作詞・片岡幸彦」と記入されている楽譜もある。

大学20周年頃は、学園歌が中・高・短大までの共通した歌であった。大学創立５年目より、独自の大学歌を設けたいという要求が高まっていった。

昭和42年春、大学内に大学歌制定委員会が発足し、友電会や校友会、学生部、学生自治会の支援で賞金付き募集を行った。応募多数の中から、ブラスバンド発起人有志の田中稔明氏と仲間による素案が入選した。

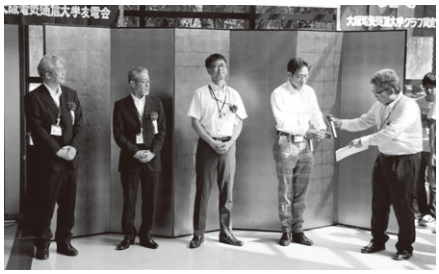
作者田中氏等は歌詞にある「宇宙をひらく」、「世界をかける」の中に、学び舎がある河内大阪にしっかり足を踏まえ、エレクトロニクスの未来と母校の発展に期待するメッセージを込めたという。素案は、当時の寝屋川市教育委員長や母校教授が助言し、大学歌が完成した。

（友電会53号　中西義一氏記事引文　一部修正）

大阪電気通信大学を卒業される皆様へ

母校を支えるOB教職員

50,000余名の卒業生を輩出する母校で活躍する諸先輩からのメッセージ



勤続年数：29年
役　　職：学事部部長

28期生　**早 野 秀 樹**

ご卒業、ご入学おめでとうございます。

卒業される皆さんは、大学で学んだ知識と知恵を活かして、活躍されることを祈念しています。卒業生が母校に戻ってきた時によく言われることは、大学の教育研究環境が人的物的ともに最先端で優れていることです。学生時代は、他大学の環境と比較することができないので、当たり前の環境と感じていたと思いますが、社会人となり他大学や所属企業等の人達と会話した時、教育研究環境が恵まれていたことが実感できると思います。母校に戻ってきた際には、そのようなエピソードなどを後輩に伝えていただきたいと思います。また、今年度から、友電会が卒業生に対する表彰制度を設けられました。表彰された卒業生は、おめでとうございます。この制度は、学業だけでなく、課外活動や社会貢献などで頑張った学生が対象になっています。職員の立場として、私は、学生の頑張りを讃えるという意味で非常に嬉しい制度だと思っています。

入学された皆さんは、期待と不安を抱いていることと思います。安心してください。私は、本学の学生へのケアは関西No.１だと思っています。他大学の職員の人と話をする機会がありますが、本学の教職員のサポートはかなり手厚いです。心配ごとがあったら、学科の先生や近くの職員に相談してみてください。もちろん、私のところに相談にきてもらっても大丈夫です。これからの大学４年間の時間を大切に楽しく過ごしてください。友電会は卒業生の団体で、入学された皆さんは準会員となっています。友電会は、奨学金制度や課外活動への支援、学内ソフトボール大会の主催、卒業時の学業もしくは課外活動等の表彰など、現役学生への支援をしていただいている団体ですので、在学中でもお世話になることがあると思いますので、覚えておいてください。

ところで、私の仕事ですが、卒業生ということもあり、「大阪電気通信大学」というバトンを次の世代にきちんと渡すことが使命だと受け止め、日々、大学運営の業務を行なっています。バトンを渡すことの一例として松杭をあげたいと思います。今年６月に新棟１期工事が完成しますが、新棟の建築にあたり、大学創立時の建物を支えた基礎の松杭が68年ぶりに地上にでてきました。この松杭は、大学を創立するために関わった関係者の方々の想いが詰まったものであり、感慨深いものです。この想いを次の50年へ何らかの形で伝えていくために、そのままの形での保存や家具としての活用など新たな命として、先人の想いを繋いでいっています。学内でその松杭を見かけたら先人への想いを巡らせてもらえたら嬉しいです。

勤続年数：25年
役　　職：理事、副学長、医療福祉工学部長
（2020年度より医療健康科学部）

31期生　**新 川 拓 也**

春、草木芽吹く季節…、我々大学に携わる者にとっては、実社会に旅立つ学生諸君を見送り、また、新しく我らの学び舎に迎え入れる時、とりわけ、本学の卒業生である私にとって、後輩諸君の晴れがましい顔を見ることができる感慨深い季節です。このたびはご卒業、ご入学、誠におめでとうございます。

私は本学工学部応用電子工学科を1993年に卒業後、本学大学院工学研究科を経て1995年に事務職員として本学に入職いたしました。その後、博士課程で博士(工学)の学位を取得し、2001年から本学医療福祉工学科に教員としてお世話になっています。すなわち、本学の学生、事務職員、教員の３つの立場をいただいたことになります。

大学にかかわる１つの事柄も、さまざまな視点から関与することができ、学んだこともたくさんありました。その中で最も大事なことは「人の力の偉大さ」ではないかと思います。何をするにも人との連携が欠かせません。特に「同じ釜の飯を食った」先輩、同期、後輩の方々と協働した経験は、何事にも代えがたい財産です。

卒業生のみなさんにおかれましては、同門の徒と手を携え、存分に活躍していただきたい。同窓会組織たる友電会は、そのための強固な連携の場として大いに機能するでしょう。

入学されるみなさん、大学では生涯にわたるつながりを作る絶好の機会が数多く提供されます。ぜひ、幅広い人脈を構築してください。我々はそのお手伝いができることを楽しみにしています。

卒業生の皆様へ　～お願い～

短い人で４年、長い人には８年の長きにわたって学んで来られました。義務教育９か年から数えると実に20年が経過しています。

人生100年時代というとか。今後、皆様が社会人としてご活躍される時々に母校のことをふと思い出し、学び舎を訪ねていただきたいと思います。

友電会は、創立55周年を迎え、多くの卒業生を母体に52,000名の同窓会組織になりました。卒業生と皆様を、また母校と皆様を結ぶ集まりです。

友電会誌やホームページで仲間たちの様子をお知らせします。是非、皆様も近況をお知らせください。よろしくお願いします。最後になりました。ご卒業される皆様の前途が幸多からんことを祈念します。

お寄せ下さい

会員諸氏からの便りを掲載するコーナーです。会員の皆様から頂戴しました近況報告などを紹介します。発行会誌毎に掲載されていませんでしたが、今回は55周年記念号であり、久しぶりにコーナーを復活させました。
会員皆様のお便りをお待ちしています。

■ *第3期*

●尾 崎 俊 一(E31003)

新川拓也さんの副学長就任、大変うれしいニュースでした。同時期に学生会館で活動した仲間として、母校発展にとっても素晴らしい事だと思います。

益々のご活躍をお祈りいたします。

住　所・広島県

10連休期間中に鈴江研究室(E７卒、電子工学科)同窓会を行いました。在りし日の先生の姿を偲びながら、年数が経った今も旧交をあたためています。

■ *第6期*

●中 谷 一 郎(H06094)

本年72歳(11月)、生駒市シルバーにて剪定作業に従事しています。週２日の作業です。まだまだ元気です。

住　所・奈良県

クラブ・無線通信

■ *第7期*

●親 里 嘉 次(F0755)

友電会の益々のご発展を期待します。

クラブに対して支援・協力をお願いしたい。

住　所・大阪府

クラブ・剣道

■ *第13期*

●近 藤 泰 直(F13185)

定年退職後、臨時講師の職をいただいていますことに感謝。

住所・兵庫県

●上 南 善 彦(E13006)

65歳から少林寺拳法部同期の仲間(大西、今井、上南)の３人で年に２回くらいの１泊２日のドライブを楽しんでいます。72歳くらいまでは行きたいと思っています。６月は、もう一人の友人福井君と４人で城崎に行きました。帰りに琴引き浜で鳴き砂を初めて体験しました。４人とも感動でした。福知山の福井君宅で彼ら夫婦が作っている野菜をたくさんいただきました。ありがとうございました。また、楽しみに健康でいたいと思っています。

■ *第14期*

●福 島　　理(F14)

2020年には65歳となりリタイアするので、その時は一度総会へ参加したいと思います。

住　所・三重県

クラブ・映画研究会

2017年度に寄せられた近況報告

●薄 木 一 起(F01031)

大電通大の現状を見せていただき感謝します。出来れば具体的な社会や企業等と結びついた研究や次世代に向けた開発、現時代に合った開発等、また学校特持の小型衛星のJAXAロケットでの打ち上げ等の面での紹介があれば、ありがたいですね。

●羽 渕 完 俊(E01049)

◎バイク　地球７周達成(約28万㎞)。現用７台目のバイクCホンダCB400は、65000㎞達成

◎74才にして絵画教室開催。月２回「てぶらで参加　油絵体験」100名を突破

●畑 上 耕 三(E02140)

生涯青春で健康に感謝し、地域活動等に日々多忙です。

先日寝屋川学舎の図書館に勤務していた方が(現在紀伊民報新聞記者)が取材に来られ、話がはずみました。

●上 野 宗 男(E02056)

毎回友電会誌をなつかしく拝読させて頂いています。

母校のますますの発展を祈願しております。

●沢 辺 伸 夫(E05044)

2011年より毎年クラブ同期生と「でんでん虫の会」として飲み会を開いております。ほぼメンバーも固まりまして７～８名集まっています。お互いに70才になりましたが、近況報告を兼ねて大学時代の事も気ままに話し合って何事もゆるせる一時です。

●中 谷 一 郎(H06094)
現在シルバーにて剪定の仕事を週２～３日やっており、いたって元気に過ごしております。無線クラブがなくなり、さびしい限りです。

●濱 本　猛(G08073)
私は、67歳(H29年６月現在)になりますが、昨年、自宅の近傍の市役所を退職し、今は共済年金等を頂きながら暮らしていますが、健康管理のため心身のケア(月に２～３回のクラシック音楽鑑賞＜西宮北口の芸術文化センター及び大阪のシンフォニーホール＞と１日、１～２時間のウォーキングetc.です)に努めております。

●水 島 秀 茂(H08184)
建築学科新設予定おめでとうございます。さて当方電子機械学科卒で建材設備サブコンで施工管理だけで一級建築士・設備資格者をとりましたが、経験で言わせてもらうと設備工学科を新設してほしかったと思います。なぜなら人間工学よりも、メカエレキ的なものに指向すべきではないかと考えるからです。

●大 塚 敏 男(F10011)
孫(娘)２人の相手に多忙な毎日です。

●松 田　啓(F11154)
今年の８月で高齢者(非生産年齢)の仲間入りとなり、改めて齢をとったものだと思います。ただこれからどう過ごすべきか、この１年間ずっと考えてきましたが、これまでの生活を引きずるばかりです。私より先輩方の御意見も拝聴する機会があれば幸いです。

●本 橋 正 毅(F11161)
昨年(2017年)１月に右膝関節を人工関節に交換して、１年半位になります。生まれて初めての入院、手術を経験しました。退院後すぐは、歩き方が悪かったのですが、リハビリ(10ヶ月)により良くなりました。正座ができないことが困ります。大学を出て40年、定年を越えるとガタが出て来た感じです。

●棚 窪 哲 司(F12089)
会員の皆様、F12期生の皆様、硬式野球部の皆様、ご無沙汰です。公立中学退職後、星翔高にお世話になっております。毎日曜日の野球の審判、野菜作り、ゴルフに健康的に過ごしております。母校にも遠のいておりますが、一度、お伺いしたいです。

●亀 田 周 治(F12164)
今年の３月、母校の大学院社会人入試　博士前期課程(電子通信工学専攻)を受験し、合格しました。(海老原研究室)しかし、合格後、家族の者が入院となり、今回の進学は最終的に断念しました。(勉学に専念出来ない為)但し、家族の者が回復しだい、来年の大学院再受験する予定です。

●中 山 英 明(I12099)
今年10月で65才になり定年となります。JR東日本トレインスイート四季島が当選となりましたので、定年前の記念の旅行にしたいと思います。
今は、人手不足の時代ですので、もう少し頑張ってみようと思っています。

●武 田 大 次(F15036)
コネクシオ(株)で定年後もドコモショップ八尾太子堂店で勤務しています。９月末で退職予定です。8/26(土)に奥野研の還暦祝を同級生と実施します。

●坪 倉 憲 一(F15110)
皆様ご健勝にてご活躍のことと存じます。小生、本年３月をもって中国総合通信局総務課長を最後に定年退職となりました。４月からは、同じ職場に週４日の再任用になっています。同じ職場での母校出身者が減ってきました。現役の学生の皆様にはチャレンジしていただきたいです。

●尾 原 道 隆(I15096)
定年退職して２年目。昨年は臨時講師として５年生の少人数指導(算数)を担当していました。今年は、非常勤講師として日本語指導を担当しています。ブラジルやマレーシア、中国、イギリスなど多国籍児童に対して、日々の授業の支援や日本語の指導を行っています。日本語が通じないので、慣れない英語(ほとんど単語)で対応している現状で、外国語(英語やポルトガル語)の辞書を片手に悪戦苦闘の日々です。ボケ防止と思って頑張っています。

●相 馬 光 信(F17010)
4/8(土)卒業後36年。初めてのOB会を開催、「山本淳之先生を囲む会」に総勢38名がホテル京阪京橋グランデに集合、演奏あり、ビデオ映像ありの楽しい会でした。

●森　哲 也(F28127)
いつも総会のご案内を送付いただき本当にありがとうございます。早いもので、卒業して25年目を迎えました。いつも母校の発展を目にして嬉しく思っております。今後も益々の発展を祈念いたします。

●清 水 洋 二(H05020)
近況報告、昨年10年間滞在していたマレーシアより帰国し、日本での生活を再スタートしています。10年前国内の会社を定年退職し、友人の誘いでマレーシアの会社で10年働き昨年終了し、帰国したわけです。
現在生活基盤を日本に移しましたが、今後日本、マレーシア間での生活を楽しめるよう計画しています。

●沖　洋 一(I15094)
先日、娘の通っている大学の父母懇談会に出席しました。大学側の話の中でクラブ活動の件がありました。クラブ・サークル活動をキャリア形成の一貫として奨励しており、加入率は50%を超えているそうです。この東京都心、千葉県東部、千葉県南部の3つのキャンパスがあり、東京都心にはグラウンド、体育館などの体育施設がないので、体育系のクラブがないなかで全学平均でこの数字が出ています。
母校も大石学長がクラブの参加率アップをおっしゃっているので、今後に期待ができると思います。

「学園創立80周年記念事業募金」～ご支援のお願い～

大阪電気通信大学友電会　会長　福田　武

大阪電気通信大学友電会に対しまして、多大なご支援・協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が母校大阪電気通信大学では2018年より創立80周年記念事業として、学部・学科を超えた複合的な学域の教育研究活動を推進することを目的に、大規模な寝屋川キャンパス新棟建築整備事業を展開しております。つきましては、大阪電気通信大学OB・OGの皆様方におかれましては、母校のさらなる発展のため、当該事業の募金活動に何卒、ご協力を賜りますよう、本会からも併せてお願い申し上げます。

完成予想図

大阪電気通信大学学長　大石利光氏のご挨拶・お願い

平素より、学校法人大阪電気通信大学に対して温かいご支援、ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

学校法人大阪電気通信大学は、1941年に創立し、2021年に創立80周年を迎えます。本学園は、草創期から電気・通信分野の教育事業を基とし、戦後の高度経済成長期を経て現在に至るまで、実学を身に付けた有為な人材を育成し、高等教育機関として社会に貢献をしてまいりました。

現在、大学では、全学部で情報教育を深化させAI・IoT時代の新たな実学教育をめざすことを社会に発信しております。大学にICT社会教育センターを新たに設置し、2020年度より小中学校でスタートするプログラミング教育の人材育成のため、各自治体とプログラミング教育に関する連携協定を結び、小中学校教員向けプログラミング講習会を開講するなど、情報教育を通じて教育資源を社会に還元しております。

一方、高等学校では、大阪電気通信大学をはじめとする大学への進学や教育連携を深めていくとともに、IoT関連の教育をさらに推進し、高等学校の魅力を高める活動を進めております。 こうした取り組みをふまえ、本学園のアイデンティティを明確にし、更なるブランド力向上を図るため、2018年秋に新たな学園シンボルマークとタグラインを制定しました。

この度、本学園は、創立80周年記念事業として、超スマート社会（Society5.0）の到来に備え、大学においては、情報教育を中心に学部学科の枠を越えた複合的な学域の教育研究活動を推し進めるため、寝屋川キャンパス新棟建築整備事業を行います。また、高等学校においては、IoT関連教育の充実ため、教育設備機器整備事業を行います。

本学園といたしましては、経費節減など自助努力に努め、健全な財政状況の維持を図りながら計画を進めておりますが、学納金のみに依存する資金計画は、大変厳しい状況であります。

一連の事業資金につきましては、何分にも多額の資金を要する事業となることから、本学教職員はもとより、卒業生、保護者、退職教職員や厚志の方々、また企業の皆さまにご助力をお願いする次第です。 現在の厳しい社会・経済情勢のもとでのお願いで、誠に恐縮ではありますが、寝屋川キャンパス新棟建築整備事業ならびに高等学校教育設備整備事業の趣旨にご理解いただき、本学園の更なる発展のため、この募金にご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

学校法人大阪電気通信大学のホームページより

2019年度(平成31～令和元年)　友電会　年間計画・事業報告

月	日	曜	事業名
4	2	火	2019年度入学式
4	14	日	神戸支部総会
4	16	火	会計監査
4	20	土	第１回理事会、第１回評議員会
5	18	土	電通高校同窓会懇親会(ホテル京阪グランデ)
5	19	日	医療福祉の会研修会
6	1	土	東海総支部総会
6	9	日	関東３支部総会(北関東、茨城、千葉)
6	15	土	神奈川支部総会
6	22	土	通常総会　第２回理事会　第１回支部長会(四條畷)
6	28	金	卒研室対抗ソフトボール準備運営委員会
7	11	木	ソフトボール組合せ抽選会
8	6	火	給付型奨学証書授与式
9	1	日	第３回理事会　(仮称)将来構想委員会
9	3	火	第42回卒研室対抗ソフトボール大会１日目
9	4	水	同上２日目
9	14	土	東京ゲームショウ激励会
10	5	土	大阪支部総会
10	6	日	事業部会
10	13	日	びわこ支部総会
10	19	土	茨城支部見学会
11	3	日	第４回理事会　第２回評議員会　将来構想委員会　ホームカミングデイ
11	9	土	神奈川支部見学会
11	16	土	京都支部、九州支部総会
11	22	金	SPI表彰
12	1	日	奈良支部総会
12	7	土	東京支部総会
12	9	月	一般社団法人登記申請
12	14	土	第１回設立時理事会　三役会
1	25	土	第５回理事会　将来構想委員会
2	8	土	第２回設立時理事会
3	7	土	第６回理事会　第３回評議員会　第２回支部長会　臨時総会(予定)

2019年度(平成31～令和元年)の友電会事業に対しまして、皆様のご支援を賜りありがとうございました。

ご卒業・ご入学おめでとうございます

新卒業生・新入生の皆さまへ

同窓会組織「友電会」の活動・事業の紹介

友電会は、昭和40(1965)年、初代卒業生を機に設立された同窓会組織です。全国には、16支部組織があり、卒期を越えた活動を展開しています。ここでは、友電会の事業や活動を紹介します。創立から半世紀がたち、正会員数は50,000名超となりました。

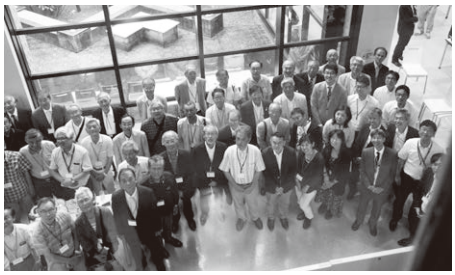
卒業生の皆さま　そして　新入生の皆さま
卒期を越えたつながりを求め、是非、友電会活動にご参画ください。

■ 友電会理事会・評議員会

理事会は友電会の執行機関であり、定款に定める予算、事業の計画等の事項に対する審議・議決と執行を行います。また、総会の計画・運営、総会で委任された事項の議決に対する執行を行います。理事会が執行する案件の内、会長が重要と認めた事項に加えて、定款第26条に規定されている事業計画および収支予算、ならびに事業報告、収支決算、さらに財産の処分等については、評議員会の承認を得なければなりません。また、理事会は年６回、評議員会は年３回開催しています。定款11条において理事10名以上21名以内で構成すると規定しています。現在、福田　武会長のもと20名の理事で構成され、日々、事項の決定と執行にあたっています。評議員は190名で、理事会からの諮問に応じています。

（令和２年３月末日現在）

新卒業生の皆さまの声を友電会にお届けくださり、共に活動を発展させましょう。


令和元年通常総会（2019年６月）

■ 総務・財務部会

総務・財務部会は、定款第37条から45条で規定されている。友電会における資産および会計、具体的には予算・決算、奨学金、短期貸付、経理等の業務を担当しています。ただし、実際の事務処理業務は日々、友電会事務局において処理されています。また、収支決算および予算、貸借対照表に基づく資産状況については、毎月税理士と相談しながら会計処理をし、友電会監事による監査を経て、６月に開催の友電会総会に報告し、承認をもらっています。

【事業内容】
- 予算、決算
- 奨学金制度
- 短期貸付制度
- 経理　・渉外　・その他

学生の皆さまへ

学生生活において、緊急に資金が必要な時は、学務課を尋ねてください。
短期貸付制度がご利用できます。
また、給付型奨学金を設け、皆様の大学生活を応援します。
詳しくは、学務課に相談してください。

■ 事業部会

【事業内容】
・総会・３団体懇親会
・卒研室対抗ソフトボール大会
・「なわてん」協賛
・その他

事業部会は、総会・懇親会、卒研室対抗ソフトボール大会（４年次）等を担当しています。総会は、友電会の最高議決機関であり、最も重要な事業です。また、懇親会は、母校教職員OB会「緑樹（みどり）会」との合同事業で、会員相互の親睦と恩師との交流を図り、情報交換の場としています。

第42回ソフトボール大会
令和元年９月　寝屋川キャンパスグラウンド

また、卒研室対抗ソフトボール大会は、令和元年度には42回を数える恒例事業となっています。寝屋川キャンパスグラウンドでの開催に学生・研究室の先生方が参加、大学職員チームが加わり、学校あげてのイベントになっています。

その他、大学の発展に協力することを目的に、教育、学術、文化活動に対する事業を行っています。

■ 組織部会

【事業内容】
・支部の育成・活性化
・支部の新設
・全国支部長会
・総会支援
・その他

組織部会は、同窓会活動の基礎であり、支部の育成・活性化および新設に取り組んでいます。現在、国内外に16支部あり、独自の事業を展開しています。全国支部長会議を開催し、お互いに情報交換を行い、活動の活性化を図っています。各支部では、新卒業生の参画を大歓迎しています。支部活動の様子は、友電会ホームページに掲載しています。是非、「友電会」で検索してください。詳しくは、本部事務局（寝屋川キャンパス内P号館１階）にお問合せください。

■ 広報部会

【事業内容】
・会誌「ゆうでんかい」
・その他発刊物
・ホームページ
・その他

広報部会は、主に本誌「ゆうでんかい」の編集・発刊と友電会ホームページの編集・掲載を担当しています。

会誌は年２回の発行です。日頃のニュースは、ホームページでご確認ください。

皆様のご意見や近況などをお寄せください。

■ 友電会事務局

【事業内容】
・友電会事業の円滑な運営に伴う事務処理業務全般
・会議の運営および財産管理と会計処理

友電会事務局は、寝屋川キャンパスのP号館１階にあります。

事務局は常時開局しています。友電会の活動を推進するためさまざまな支援を行っています。皆様の住所等の変更が生じた場合は、友電会事務局までご連絡いただきますようお願いします。

e-mail：yudenkai@yudenkai.org

～支部長メッセージ～

卒業生の皆様へ

友電会が発足して55年が経ちました。今や卒業生は５万人を超え、先人のOBは各分野で活躍しています。これからの日本社会は就労の形が終身雇用でなくなりつつあるとも言われます。働きながら学ぶOff-JTは、各地の支部に繋がるさまざまな職種のOBとの出会いで、学ぶきっかけがつかめると考えます。

全国に設置した支部長からのメッセージを皆様へ贈ります。

友電会東京支部　紹介

◆東京支部長　蕭（ショウ）　烱森（ケイシン）（K23）

皆さんこんにちは、東京支部長を務めさせて頂いているK23期の蕭（ショウ）　烱森（ケイシン）です。

難しい漢字ですが、実は出身は台湾です。大学卒業後15年ぐらい大阪で勤めてから東京に移住しました。日本には約38年に在住しながら海外出張が多いですので、怪しい日本語を話しています。ぜひ東京支部に会いに来て頂いて日本語を指導して頂きたいです。心からお待ちしております。宜しくお願い致します。

東京支部の特色を紹介すると、「どこからかなぁ」といっぱい特色があるので迷っています。まず東京支部部員先輩たちは企業の中間管理職から経営者、海外勤務をした方と素晴らしい方が揃っています。定例会では母校の近況報告、友電会活動報告、各先輩達の仕事や人生の素晴らしい経験談の交換、ほかに東京近郊視察の活動で和気あいあいで実施しています。

また、定例会後の懇談会も楽しみです。飲みながら東京での生活相談、仕事相談からビジネス連携まで幅広く相談することが可能です。

定例会以外に新社会人歓迎会、年度総会も開いております。もし東京地域に就職又は転勤されたら、是非、友電会東京支部の定例会に顔を出して頂きたいです。新社会人は初年度の新社会人歓迎会と年度総会の参加費は無料ですので、是非顔を出してくださいね！

また若いOB達も大歓迎です。気楽に来て頂きたいです。

◆連絡先

〒105-0004　東京都港区新橋５-20-３　新橋STビル３F
TEL：03-6435-9196　FAX：03-6435-9197
Email：hsiao@dbmaker.co.jp　URL：http://www.dbmaker.co.jp　携帯:090-9342-6188

友電会びわこ支部　紹介

◆びわこ支部長　澤居比佐夫（さわいひさお）（H17）

滋賀県出身の皆さん、ご卒業・ご入学おめでとうございます。滋賀の支部長をしています。澤居（さわい）比佐夫（ひさお）です。

電子機械工学科を卒業し、40年が過ぎました。現役生活をリタイアしましたが、まだまだ現役で働いています。

支部が設立して29年目を迎えます。全国でも早期に立ち上げられ、その時から「びわこ」を冠にした支部として活動をしてきました。

「創造のエネルギーを体感して湖国の文化に親しむ」をスローガンに滋賀県各地のOBとの交わりを大切にしています。

さらに幅広い年齢・卒期の同窓生とのつながりを大切に、支部組織の充実を図っています。是非、びわこ支部の活動にご参画ください。詳しいことをお知りになりたい場合は、びわこ支部ホームページをご覧ください。

◆連絡先

Email：hso.1619@docomo.ne.jp　URL：yudenkai-biwako.sakura.ne.jp　携帯：090-1446-2876

東海総支部　紹介

◆東海総支部支部長　志村哲樹（F07）

私は東海総支部の支部長を拝命している志村哲樹です。1971年工学部通信工学科７期卒業でクラブ活動は剣道部です。

東海総支部の管轄地域は愛知県、静岡県、長野県、岐阜県、三重県の５県で活動拠点は愛知県です。

東海総支部の主な活動は東海総支部総会、支部研修会、新春ボウリング大会および役員会です。

その中で、支部研修会についてご紹介します。東海地方はものづくりが盛んな地域で、そのものづくり精神を学ぶ目的でトヨタ博物館、トヨタ産業記念館、MRJミュージアム、リニア鉄道館などを見学し、東海地方で発展しているものづくりの素晴らしい技術を目の当たりに体験しています。

会合や研修会の後には懇親会を行い、近況や政治や健康などの話で盛り上がり、和気あいあいの雰囲気で同窓会活動を楽しんでいます。

支部総会や研修会の開催案内を友電会HPに記載しますので、参加を希望される方は連絡してください。準会員（学生）の方も就職や転勤等で東海方面に来られたら、是非連絡して下さい。大歓迎致します!!

◆連絡先

Email：tetsuki@cac-net.ne.jp

北関東支部　紹介

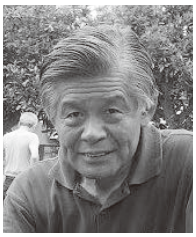
◆北関東支部長　坂手宏行（J21）

この度は卒業おめでとうございます。北関東支部には、埼玉県・群馬県・栃木県に住まいを持たれている約140名の会員がいらっしゃいます。東京に近いこともあり、私のように埼玉県から東京都の職場に通勤しておられる現役の会員も多くいらっしゃいます。当支部の良いところは１期生から54期に渡るまでその年齢層の幅が広く、国内のみならず海外勤務経験の方も多いのが特徴です。今やグローバルの時代。本学で培った技術やスキルを活かして社会で今も活躍中、あるいは活躍された方の経験等、役に立つお話もたくさん聞くことができます。卒業後に学ぶことの方がきっと在学時より多いこれからの社会人生活において、OBの方々の存在はきっと皆さんにとっても励みになると思います。ご縁があり当地区にご赴任の際は、遠慮なくお声をおかけください！お待ちしております！

◆連絡先

Email：qtdyf773@icloud.com

神奈川支部　紹介



◆神奈川支部長　田谷利明（F07）

友電会神奈川支部は、当時の関東支部(現関東総支部)の枝葉の活性化を目的として、1980年代に設立した神奈川ブランチを起源とした友電会の都道府県単位の組織としては、最も歴史のある組織です。活動としては、県内各地の施設の見学及び懇親会を６月(総会を兼ねる)及び秋の年２回開催し、関東総支部の支援のおかげで、在住会員比10%以上の方が参加していただいております。

今までの見学場所は県内各地の博物館、研究施設などですが、一般では見学できない日本の防衛の要である「海上自衛隊厚木基地」(米軍と共同運用)、予約がとりづらい日本最初のビール工場の流れを汲んでいる「キリンビール横浜工場」等、この機会でないと見学できないところもありました。

今後も地域やカテゴリを考慮し、県内各地の施設見学を続けていきます。開催の通知は友電会ホームページで行いますので、神奈川在住、在勤に限らず皆様の参加をお待ちしております。神奈川にはビールに限らず日本初のものが数多くあり、殆どの方が何らかの形で神奈川と縁があるかと思いますので、よろしくお願い致します。

◆連絡先

Email：toshi.t@d4.dion.ne.jp

支部組織活動報告

友電会は、全国に16支部(休部を含めて)設置し、友電会本部の活動と連携しながら、地域ごとに独自の事業を行っています。2019年度の支部活動を紹介します。

卒業生の皆様が社会人となられ、知らない土地で新生活を始められても、身近に母校の先輩OBやOB会があることを知っていただき、連絡をしていただければ幸いです。

是非、一度各地のOB会に出向いてください。また、社会人として余裕が生まれてきた方々も連絡をとってください。皆様と合流できることを期待しています。

関東総支部 (神山清明(H15)支部長)

友電会関東総支部(神山清明(H15)支部長)は、2019年6月9日(日)、関東総支部下3支部合同の支部総会を開催した。また、支部総会後は、関東総支部総会および記念講演、合同懇親会が開催され、盛況の中終了した。

6月9日(日)に千葉市アパホテル&リゾート東京ベイ幕張(49階ラ・ジュエ・ド・シェル)で開催された関東各支部「総会」は、福田会長をはじめとする22名が参加し、下記日程で開催した。

1.日時

2019年6月9日(日)
千葉支部総会　13:30～14:00
茨城支部総会　14:00～14:30
北関東支部総会　14:30～15:00
関東総支部総会　15:00～15:30
関東各支部合同「記念講演」　16:00～17:00
関東各支部合同「懇談会」　17:00～19:00

2.概要

北地憲治さん(E10：関東総支部)総合司会のもと、関東各支部初の合同総支部総会が開催された。また、本学大石学長兼理事長からの祝辞が川口明良さん(F04：神奈川支部)から紹介された。

北地司会

(1)はじめに：神山清明関東総支部長(H15)挨拶

神山総支部長から関東各支部総会開催の趣旨が報告された。

年度初めを4月から開始する組織では、会計上年度開始後3か月以内に前年度決算及び今年度予算報告を行うことが常識であるが、友電会が法人化を控える中、従来通り総会を年度半ば、年度末近くに承認を取る形は組織として歪であり、是正すべくまずは決算予算可決承認を早く行い、その後各支部での懇親会、見学会などのイベントを従来通り開催することが組織として望ましいと考え、本日開催に至ったとの内容だった。今回は千葉支部、茨城支部、北関東支部からも賛同を得て開催したが、既に総会日程が決まっていた東京支部、神奈川支部の総会は別日程となったとのことであった。

祝辞を読み上げる川口さん(F04)

挨拶する神山関東総支部長(H15)

(2)千葉支部総会

① 議長は、坂本充さん(H21：千葉支部)がされた。
② 昨年度会計報告にて関東総支部からの還付金が分配された旨神山清明会長(関東総支部会長兼任)からあったと説明・報告された。
③ 今年度事業計画の中で、今夏陸上自衛隊富士総合火力演習視察ツアー計画の報告がされた。
④ 昨年度の事業報告、収支決算報告並びに今年度の事業計画、予算案は賛成多数で可決された。

坂本さん(H21)

(3)茨城支部総会

⑤ 議長は塩田義裕支部長(H12)がされた。
⑥ 昨年逝去された大塚敏兼先輩を偲ぶ会の開催報告がされた。
⑦ 昨年度収支決算報告は、会計担当の吉田栄治(H02)茨城副支部長から報告された。
⑧ 昨年度の事業報告、収支決算報告並びに今年度の事業計画、予算案は賛成多数で可決された。

塩田茨城支部長(H12)

(4)北関東支部総会

⑨ 議長は坂手宏行支部長(J21)が行った。
⑩ 予算決算報告は、昨年度事業報告今年度活動計画と合わせて報告された。
⑪ 昨年度の事業報告、収支決算報告並びに今年度の事業計画、予算案は賛成多数で可決された。
⑫ なお、今秋予定されている懇親会開催は、茨城支部懇親会と日程が重ならないようにとの意見も会場から出された。

(5)関東総支部総会

⑬ 議長は川口明良さん(F04)が行い、決算予算報告が神山支部長からされた。
⑭ また決算の監査報告が守上芳士さん(E05)からされた。
⑮ 特に今後の友電会活性化のため、支部がない北海道、東北、北陸を優先に支部設立準備を進めてゆくとの報告がされた。その中で、これらの地区も関東総支部管轄であることが友電会会則より確認、共有された。
⑯ 昨年度の事業報告、収支決算報告並びに今年度の事業計画、予算案は賛成多数で可決された。なお、会場から原則各総会は、本来地元で開催すべきであり、各地区地元での開催をより促進すべきとの意見も聞かれた。(羽渕完俊顧問(E01)神奈川支部)

（6）最後に：福田武友電会会長（E02）からのご挨拶

挨拶される福田会長

支部の設立準備はしっかり進めていただきたい。関東総支部が各支部をコントロールすることなく各支部の意思を重視するよう進言された。また活性化のためイベント費を有効に活用することも考えてほしい。不足すれば本部に申し出てもらいたい。あいにく５月11日東京支部主催OB会開催にあたっては本部に相談がなかった。新卒の情報は本学が持っている。本学、友電会は常に両輪である。このことを意識して人材の掘り起こしに尽力いただきたいと各会員を激励された。

なお、その後深野隆司前関東総支部長（I02）からの進言もあり、当日事情で欠席だった田谷利明（F07）神奈川支部長以外の各支部支部長（本日総会がなかった蕭　烱森（K23）東京支部長含む）からの自己紹介がされた。

（7）特別講演 小川和久先生「実は抑制的な中国、日米同盟のリアリズム」　16:00～17:00

日本では数少ない軍事アナリストのパイオニアであり陸上自衛隊出身で、静岡県立大学特任教授としてテレビにもコメンテーターとしてお目にかかることの多い小川和久先生からの講演を拝聴した。小川先生は、同じ自衛隊でも海上自衛隊出身の川口明良さん（F04）と同年で73歳とのことであった。

中国は経済的にも日本の影響が大きいが、共産国でもあり、国民への権力アピールなどから尖閣諸島などの他国国境地域での威嚇に近い行動をとっているとの、心理的な興味深い話もあった。

軍事機器の技術にも詳しく、通常対抗国には言わない自国兵器の欠点なども、先生にはおのずと正直に伝えてしまうほどのお話も聞かれた。

（8）懇親会　17:00～19:00

懇親会のみであったが、山岸紳一さん（J17）が奥様とともに会に初めてご参加された。（旧工学部精密工学科　秋山研卒：秋山健二元教授は、当時半導体開発の一人者で本学就任前は前松下電器中央研究所薄膜研究室（現在パナソニック）に在籍。）和やかな雰囲気で、各々近況報告や今後の友電会の在り方などの議論で、大変有意義な時間であった。

◆議案審議

第１号議案　2018年度　活動報告（2018/4～2019/3）
第２号議案　2018年度　決算及び監査報告
第３号議案　2019年度　活動実績と予定（2019/4～2020/3）
第４号議案　2019年度　決算見込

◆基調講演会

テーマ：『 人材力の強化 』企業価値の向上に向けて
講　師：アイコム株式会社　代表取締役社長　播磨正隆 様
（工学部　通信工学科　山口研究室（F13））

◆学園近況・80周年記念事業レポート

大阪電気通信大学　法人理事長兼学長　大石利光 様

◆記念写真撮影

◆懇親会

基調講演会

東京支部長のご挨拶

播磨氏の講演

テーマ：『人材力の強化』企業価値の向上に向けて
講　師：アイコム株式会社　代表取締役社長　播磨正隆 様
母校　工学部　通信工学科　山口研究室（F13）

学園近況・80周年記念事業レポート
大阪電気通信大学　法人理事長兼学長　大石利光 様

東京支部（蕭　烱森（K23）支部長）

友電会東京支部総会（支部長　蕭　烱森（K23））は、2019年12月７日に以下の通り2019年次総会を開催いたしました。

突然の寒流にも拘わらず34名の参加となり、盛会のうちに終えることが出来ました。

ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

□開催日時：2019年12月７日（土）　12時 ～15時30分
□会　　場：東京都千代田区　都市センターホテル内　レストラン アイリス
□開催内容：
◆東京支部支部長の開催挨拶　　支部長　蕭　烱森
◆ご来賓紹介
◆友電会 会長のご挨拶　　会長　福田武 様

神奈川支部（田谷利明（F07）支部長）

友電会神奈川支部（F07期　田谷利明支部長）は、2019年６月15日（土）11：00～、見学会、懇親会を兼ねた支部総会を横浜市鶴見区生麦にて行いました。参加者は、天候の悪い中、友電会本部から岡本副会長、関東総支部から神山総支部長等の県外の方を含め、１期から21期までの17名の参加がありました。なお、神奈川在住の方につきましては184名に通知を出し、９名の参加(神奈川在住者の参加率：約５%)でした。

生麦事件参考館

11時に京浜急行生麦駅に集合後、駅前商店街のひとつ裏通りにある「生麦事件参考館」の見学を行いました。生麦事件といえば教科書に出るような日本の歴史に大きな影響をもたらした事件ですが、この施設は公営の博物館ではなく、館長の個人施設となっております。館長が御高齢ということもあり、公式には閉館となっておりますが、この見学会に合わせ特別に開けていただくことができました。

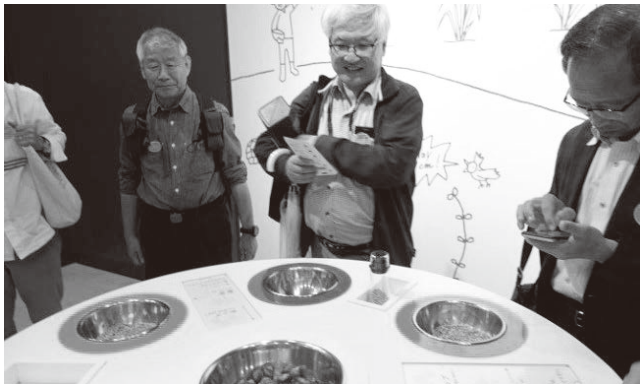
見学前に、地元の鶴見公会堂で館長講演のDVD約１時間を見て、事件の概要を学び提示品の見学となりました。

生麦事件は、文久２年（1862年）８月21日、武蔵国橘樹郡生麦村（現在の横浜市鶴見区生麦）の東海道で江戸から下っていた薩摩藩の大名行列と横浜の外国人居留地から川崎大師に向かっていたイギリス人４名が鉢合わせとなり、無礼者として殺傷された事件です。

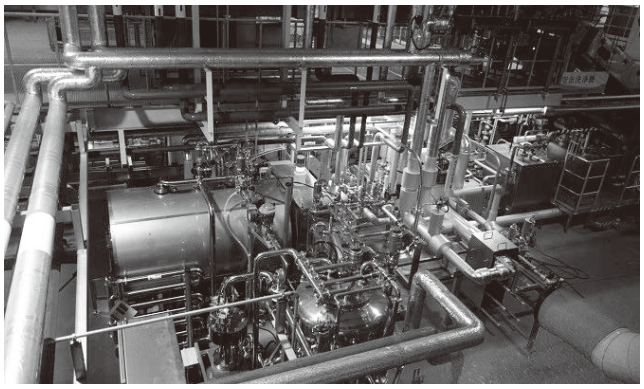
事件としては、即死が１名、負傷が２名で、当時はこれよりも大きな事件も発生していますが、なぜこの事件が重要視され教科書にのるようになったかは、講演の中で述べられていますが、この事件をきっかけに薩英戦争に発展し、その装備のレベルの差を痛感した薩摩藩が開国に動いたということです。また、展示品の中には当時の文書等の貴重な資料もあります。

鶴見公会堂での講演のDVD約１時間鑑賞

その後、箱根駅伝コースとなっている国道15号を少し歩き、キリンビール横浜工場の見学となりました。ガイド付きの見学60分と試飲20分のツアーが完全予約制となっており、この工場は比較的便利な場所にあり人気が高いので、今回の予約は、３月の下見の際に６月の20名程度が可能な土曜日で探しましたが、この日時(6/15 12:40～14:00)しかとれない状況でした。見学の最初は映像により工場の歴史(ビールの発祥は横浜で、これがキリンビールの前身となっている)と主力製品の「一番搾り」の紹介があり、その原料から出荷までの過程を製造ラインに沿ってガイドの説明を聞きながら見学です。余談ではありますが、この時に対応してくださったガイドさんは下見の時に研修生として教官付き添いでガイドしてくださった方でした。



ホップの麦芽試食



缶詰め等の製造ライン

原料の過程ではホップと麦芽に実際に触れることができ、麦芽の試食もできます。醸造工程は、タンクが並んでいるだけで中の状態はわからないので、マッピングの技術を使いタンクに映像を映し出す演出がありました。発酵前の麦汁の試飲もありますが、ここでは、「一番搾り」を演出するため一番搾り麦汁と二番搾り麦汁との飲み比べとなっていました。当日は残念ながら休日のため、工場の缶詰等のラインは停止していたので、映像を用いての説明となりました。見学後は待ちに待った試飲ですが、３種類(通常、黒、プレミアム)の一番搾りの試飲ができました。試飲会場ではガイドが各テーブルを回り質問等が可能ですが、誰かが通常とプレミアムの違いを質問しましたが、材料(プレミアムは国産の麦芽)ということでした。試飲会場内には売店もあり、ここでしか買えないお土産を買ったメンバーもいました。

試飲会場の様子

見学終了後、14時から場所を工場内のレストラン「スプリングバレーブルワリー横浜」に場所を移して、総会を行い、下記の議案を田谷支部長が説明し、満場一致で承認されました。

第１号議案　2018年度事業報告
第２号議案　2018年度決算報告
第３号議案　2019年度事業計画案
第４号議案　2019年度予算案
第５号議案　2019年度役員案(昨年と変更なし)

総会終了後、吉田さん（F02期）の乾杯の音頭で後懇親会がスタートし、近況報告のみならず、同窓会活動についての活発な議論もありました。所定の２時間、料理と工場直送のビール(ここでしか味わえないものもある)等のドリンクと満喫し、東京支部長の観野さん（E04期）の一本締めで終了となりました。

今回の参加者は昨年より少し減り20名を切りましたが、昨年参加されて今年参加できなかった方は、いずれも総支部役員なので、神奈川在住の会員の参加は減っていません。しかし、新しい参加者がいなかったことも事実なので、この新しい参加者を増やすことが神奈川支部のみならず、友電会全体の課題と言えます。

この件は、懇親会、２次会でも議論されましたが、簡単に結論が出るものではありませんが、できることを１つ１つ積み上げていくしかありません。

幸いにも関東の場合、故大塚元総支部長が築き上げた支部(現在の総支部)及びそれを活性化させるための枝葉の組織であるブランチ(現在の支部)の体制が確立しており、隣接支部との連携が友電会の他の大都市圏にくらべてできているのも事実です。関東各都県の会員数は関西の各府県の会員数の１割以下ですが、各都県支部として活動できるのはこの連携のおかげだと言えます。また、交通機関においても私鉄の相互乗り入れも進んでおり、私鉄のみでもかなり広範囲(横浜・中華街～埼玉・秩父エリア等)を乗り換えなしで行けるので、これも隣接支部との連携にとってプラス材料となっております。

今回ご都合が悪く参加できなかった方等で、個人で見学したい場合は、今回の「試飲付きのガイドツアー(無料)」はインターネットや電話で予約すれば個人や少人数でも参加できます。土日は予約がとりづらいですが、キャンセル等で空きがあり、運が良ければ直前でも予約できます。また、レストラン、庭園、売店等、予約なしで利用できる施設もあります。そのほかにも「ビール造り」等の有料のプランもあるので、興味のある方は、ホームページで確認することをお勧めします。

神奈川支部は総会(５～６月)を兼ねた懇親会だけでなく、昨年より秋に見学会を開催しており。本年は、すでにホームページ等で告知のとおり、11月９日14時にJR桜木町駅に集合し、「ランドマークタワー」、「三菱みらい技術館」を見学後、17時より懇親会となる「見学会」を予定しております。会費(入場料込)につきましても、皆さまが気軽に参加できるように本年の本部総会程度に抑えています。神奈川に限らず、友電会関係者なら誰でも参加できるのでよろしくお願い致します(見学会の詳細はホームページの開催案内を参照)。

懇親会風景

東海総支部 (志村哲樹(F07)支部長)

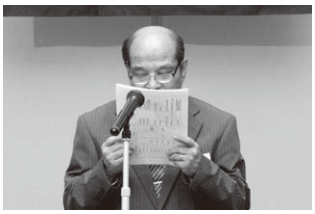
挨拶する榊原副支部長

友電会東海総支部は「2019年度総会･懇親会」を2019年６月１日(土)、13時00からJR名古屋駅西側に位置する「名鉄ニューグランドホテル」で開催しました。

学校法人・大学から大石理事長・学長、寺西法人事務局長、千松大学事務局長、そして友電会から福田会長、岡本副会長をはじめ関東総支部、びわこ支部、京都支部、奈良支部、大阪支部、神戸支部から17名、東海総支部会員から12名の総勢29名が出席し、盛大に開催することが出来ました。

司会の井原賢次氏

議長の藤田英治氏



会計担当の山下友彦氏

会計監査の野村康明氏

総会は井原賢次氏(F08)の司会で始まり、支部長の志村哲樹氏(F07)が体調不良で急遽欠席のため副支部長の榊原秀之氏(H13)の挨拶の後、藤田英治氏(E22)の議長選出で１号議案から３号議案の平成30年度事業報告・会計報告及び2019年度事業計画・予算案および４号議案の2019年度東海総支部役員案が審議され、総会終了後、記念講演会を行い大石理事長・学長先生から「2021年学園創立80周年に向けての大学の取り組み」をテーマに、教育の基本方針として、実学教育で「人間力」と「技術力」を培う大学として何を行っていくかについてご講演頂きました。

ご講演される大石理事長

重点方針としては、第１次５ヶ年計画、共通最重点目標「学生・生徒の維持、向上」を上げ、学生の確保に向けた魅力ある大学への改革として新入学生獲得、離学者の低減、進路決定率関西№.１の復活を目指す。

学生に資格取得を推進させるため、資格取得の表彰制度を実施し年々増加している。

学園創立80周年に向けた取り組み内容は、学園の新ロゴマーク、タグライン、寝屋川キャンパスのリニューアル推進、医療福祉工学部→医療健康科学部へ名称変更、「実学」の強みを生かした情報教育の強化で、「ICT社会教育センターの設立」等で将来が期待される内容の講演でした。

記念講演の様子

大石理事長・学長先生にご講演頂いた後は、The Blue Thunder Boysの演奏会で楽しいひと時を過ごしました。メンバーはびわこ支部の山口朝弘氏(F05)、奈良支部の吉岡睦氏(E06)、京都支部の下野哲生氏(H09)です。今回で３回目の出演となりますが、熟練度を増し参加者を楽しませてくれました。

大学事務局長と法人事務局長

熱演のThe Blue Thunder Boysの面々

演奏会の後、会場を移して、お待ちかねの懇親会が始まりました。榊原副支部長(H13)の挨拶の後、来賓代表として理事長・学長の大石利光様、法人事務局長の寺西正光様、大学事務局長の塩田邦成様、そして友電会からは会長の福田武様にご挨拶を頂きました。

乾杯は東海総支部の創設者で初代支部長の臼井宏氏(E01)の音頭で行われ、懇親会が始まりました。

暫く歓談した後、友電会副会長の岡本清孝氏(H11)からのご挨拶に続いて、友電会本部や他の支部から出席頂いた支部長、副支部長からスピーチを頂きました。

そして、東海総支部の会員で今回総会に初参加して頂いた竹田治英氏(F19)を始め、東海総支部の新役員にもスピーチして頂きました。

最後はThe Blue Thunder Boysの生演奏で全員で大学歌を斉唱し、５代目支部長の野村康明氏(E01)の名古屋ナモ締め！ナモ！ナモ！ナモの後、記念撮影をして閉会しました。

友電会会長の挨拶

理事長の挨拶

総支部創設者の臼井氏挨拶

野村氏のお開きの挨拶

歓談のひとこま

びわこ支部 （澤居比佐夫(H17)支部長）

テーマ　～創造のエネルギーを体感して湖国の文化に親しむ～

友電会びわこ支部(澤居比佐夫(H17)支部長)は、令和元年度(2019年)支部総会及び懇親会を近江八幡市において開催しました。

滋賀県は、政治・経済の中心地に近く、日本の物流の要として商売を育んだ土地として有名です。これまでも、近江商人を生んだ五箇荘や彦根(豊郷)を訪問しました。

今年は、大阪と深い関わりがある近江八幡市で実施しました。時代劇のロケにも使用される八幡堀での記念撮影は、タイムスリップした感があり、皆様も大満足でした。

県内外から26名の方々にお集まりいただきました。秋晴れの一日、皆の親睦を深めました。

ご参集の皆様、ありがとうございました。

2019年びわこ支部総会の様子

【近江八幡の歴史と発展】

豊臣秀吉の甥(秀吉の姉＝ともの息子)で秀吉から関白を引き継ぐ豊臣秀次が、近江八幡に八幡山城を構築して城下町を整備し、近江八幡の基礎を築きました。施政時期は短く、けれど、戦国→江戸→明治と発展し続けました。もともと八幡堀は、琵琶湖の寄港でした。楽市楽座を取り入れ、商業を発展、「三方よし」(売り手＆買い手＆社会の三方)と呼ばれる商魂は、この近江八幡から生まれました。その商業の礎となった八幡堀、昭和30年代はドブ川と化していました。市民による清掃活動によって在りし日の姿を取り戻し、今や近江八幡のシンボル的存在となっています。

時代劇によく利用される八幡堀の佇まいにしばしタイムスリップ。気持ちが和むひとときでした。

八幡堀前で記念撮影

◇旧市街地から八幡堀

10:00　JR近江八幡駅に集合した一行は、路線バスに乗って八幡山ふもとへ移動、秀次が布いた旧市街地を散策しました。「ふとんの西川」や「住友」など日本のトップ企業に連なる近江商人の生家を訪ね八幡堀を散策、石畳をそぞろ歩きして時代の風情を感じました。

◇総会

13:00　総会は西川達也氏(M41)副支部長の司会で進行しました。澤居支部長は、平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画案・予算案を一括提案しました。「びわこ支部は、近隣支部や本部事業との連携を大切な方針としており、一層力を注ぎたい」と挨拶しました。

また、友電会発展のために準会員との絆を結ぶ事業を推進することを目標に掲げ、今年支部総会として、初めて現役学生が出席しました。小さなお子様連れの会員の姿も見られました。「会員だけ」の懇親会から「ご家族の方々も」参加できる会にしていければと思いました。

総会風景

◇懇親会

13:30　懇親会は、八幡堀沿いの瓦亭で開催しました。友電会からは山崎敏之副会長の挨拶をいただき、びわこ支部1期生の平岩智志氏の乾杯の発声で宴が始められました。卒期1期から50期までが揃いました。昨年参加した若いメンバーに加えて5人の初参加、次世代を担うメンバーが台頭してくれています。

乾杯の音頭をとる1期生

寺西事務局長ご挨拶

学園80周年の年は、びわこ支部は創設30周年を迎えます。

大学からは寺西正光事務局長にご出席・ご挨拶をいただきました。現在建設中の新寝屋川校舎の状況や「役立つ大学」として近年入学者が増えてきたことなど、卒業生にとってうれしい報告をしていただきました。

「新たな時代を切り拓く母校」の推進力として、募金事業にご協力をお願いします。

ここに、2019年度総会にご出席いただきました皆様に、改めてお礼申しあげます。

次回の総会・懇親会での再会を楽しみにしています。

ありがとうございました。

懇親会で交流する準会員、びわこ支部員と他支部会員

京都支部　(段安義彦(F06)支部長)

2019年度(令和元年)11月16日(土)、友電会京都支部(段安義彦(F06)支部長)は、からすま京都ホテルにおいて京都支部総会を開催しました。

学生が制作した世界レベルのロボット

晩秋の京都は秋日和、回を重ねる「母校自由工房との交流イベント」では、学生プロジェクトチームが参加し、海外で開催の競技会で優秀な成果をおさめたロボットも登場しました。

母校の教育方針「実学の電通大」を彼らのプレゼンテーションから感じられて、とても頼もしい後輩に嬉しく思いました。

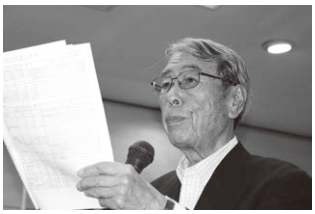
懇親会では、今OBバンドとして引っ張りだこのThe Blue Thunder Boysの演奏もあり、短いひと時を楽しみました。

□令和元年度支部総会

段安義彦支部長の挨拶の後、来賓の友電会岡本清孝副会長の挨拶、大学法人の周年記念募金推進室の石本一平様から挨拶をいただきました。その後、平成30年度の事業報告・決算報告、令和元年度活動計画・予算の審議および決議をおこないました。

段安義彦支部長と兵藤敏夫副支部長・下野哲生議長

進行役を務める奥田　裕事務局長



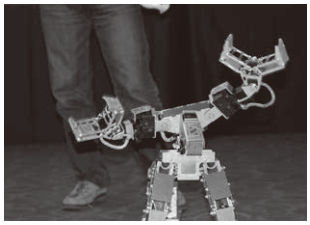
監査報告する北川　昇監事

来賓挨拶をする岡本清孝友電会副会長

法人代表の挨拶　石本一平氏

□自由工房の学生プロジェクト紹介

京都支部は、学生の主体的学びの場「自由工房」と連携を図り、毎年プロジェクトを紹介するコーナーを設置しています。今年度は、ヒト型ロボットと知能ロボットを携え参加してくれました。



「ヒト型ロボット」研究を紹介する学生グループ

「知能ロボット」研究を紹介する学生グループ

□懇親会の始まり

母校元学長の南茂夫先生から乾杯音頭をいただき、懇親会が始まりました。水本雅晴元教授のご挨拶を皮切りに、支部長等の紹介で賑やかな懇親会を過ごしました。

The Blue Thunder Boysのミニコンサートは、京都支部会員の下野さん、奈良支部の吉岡さんとびわこ支部の山口さんや平等寺さんの4名が京都の風情を感じる楽曲を披露してくださいました。最後に、北森さんの指揮とThe Blue Thunder Boysの伴奏で学生たちを囲み、学校歌をうたい、和やかな懇親会は終了しました。

奈良支部（松井俊樹（Ｉ13）支部長）

友電会奈良支部（松井俊樹（Ｉ13）支部長）は、令和元年12月1日、ホテルフジタ奈良にて総会・懇親会を行いました。

奈良支部総会は、提案の事業報告ならびに決算報告、令和2年の事業案および予算案を原案の通り、承認をいただきました。

総会の後、大学法人事務局の石本様より最近の母校の変革についてご紹介いただきました。

松井支部長による提案

石本一平様（大学事務局）あいさつ

講演は、本学OB(46期生)の川西秀明医学博士（奈良県立医科大学附属病院医療技術センター）に、博士号の学位を取得された研究課題「全身麻酔後の呼吸変化を伴わない酸素飽和度低下の影響」をしていただきました。ご質問にも丁寧に答えていただき、活発な質疑応答ができました。

私には分野が違うので少し難しく感じました。

川西氏の講演

乾杯の音頭をとる石本氏

懇親会では法人事務局の石本様の乾杯で始まり、共催の学科卒業生の組織「医療福祉の会」の代表岡崎氏よりこれまでの活動および来年医療福祉工学部20周年（令和２年６月28日）の開催案内があり、皆様のご参加へのお誘いを受けました。

岡崎氏のあいさつ

各支部長様からのあいさつもあり、楽しい時間を過ごしました。

最後に記念写真、大学歌を斉唱してお開きとなりました。

友電会奈良支部総会にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

奈良支部　副支部長　山崎敏之

大阪支部（平岡　臨（Ｉ07）支部長）

2019年度（令和元年）10月５日（土）、友電会大阪支部（平岡　臨（Ｉ07）支部長）は、大阪平野の東部に位置する石切にて、第4回大阪支部総会・懇親会を開催しました。

当日は、よく晴れた秋日和で、近鉄石切駅から続く下り坂を降り切った頃には、薄っすらと汗が滲み出て、気持ちがよいハイキング感を味わいました。また、石切神社へと続く道すがら、風情のある店が立ち並び、是非紹介したいスポットと、県外からの参加者に好評でした。

参拝後は、場所を移しての総会及び研修会を行いました。

◇石切駅から情緒あふれる参道

生駒山麓にある石切劔箭神社は加持祈祷、百度参りの有名な神社で、関西はもとより全国から大勢の方がお参りになられています。近鉄石切駅に集合した後、参加者一行は歩いて神社へ向かいました。下り坂の厳しさを忘れる参道両脇のにぎやかな出店をのぞきながら、「石切さん」に到着しました。

参道の店でしばらく休憩

参道を望む

◇夢を語る若きリーダー

参拝後は、総会場があるホテルへ移動しました。

今年度は、eスポーツの普及と振興を図りたいと起業した本学の山口勇さん（母校四條畷キャンパスで学ぶ４回生）にeスポーツの楽しみ方や起業家としての想いを語っていただきました。今年の友電会通常総会の記念講演者であった、いしぜき教授のアシスタントとしての出会いを経て、２度目となる講演をお願いしました。

講演する山口勇さん

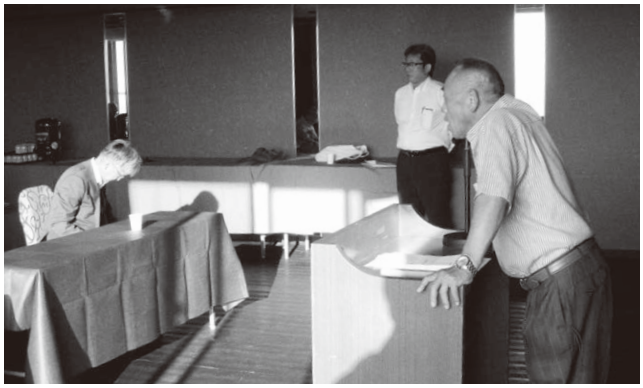
話に耳を傾ける参加者

ゲームの楽しみを学ぶ友電会員

◇2018・2019年度支部事業及び決算・予算説明・報告

平岡臨支部長は、2018年度事業報告及び決算報告、2019年度の事業計画及び予算案を会場の出席者に説明報告し、承認を得ました。

総会の開会に先立って、法人大阪電気通信大学事務局長の寺西正光氏が来賓の挨拶に立たれ、学園80周年記念事業に向けた一層の支援を卒業生に呼びかけられました。


総会挨拶する平岡支部長

会計報告する澤田氏

提案説明する支部長

法人の代表挨拶をする寺西さん

◇互いの関係を深める懇親会

大阪支部は、友電会支部の中では最も設立が新しい支部です。平岡臨支部長が率先して、支部事業を推進していますが、歴史を刻む他の支部との交流を深め、独自の事業形態を作り上げたいと考えています。

今回、東海総支部、京都支部、奈良支部、びわこ支部、近隣支部の会員のご出席がいただけ、有意義な時間を過ごすことができました。

懇親会「開会あいさつする副支部長」

懇親会の様子

懇親会に移って冒頭、神戸支部総会には欠かさずご出席の水本雅晴名誉教授のご挨拶、友電会副会長岡本清孝氏、東海総支部長志村哲樹氏より挨拶を頂きました。

また、東海総支部長兼友電会副会長の志村氏から乾杯の御発声を頂戴し、懇談会が始まりました。参加者同士の歓談の場は、やがて、ジャズ歌手LIZA BOさんのミニコンサートの会場と移り、ムードあふれる歌唱に懇親会は一気に盛り上がりました。

ジャズ歌手LIZA BOさん

懇談会に出席された皆様方から挨拶、自己紹介を頂き、懇談会は閉会しました。

挨拶する水本教授

稲原氏から監査報告

臼井氏による講演

議長山崎洋一郎

幸村常一支部長

田中二郎会計

藤本　明進行役

志村東海総支部長

神戸支部 （幸村常一（H16）支部長）

友電会神戸支部（幸村常一（H16）支部長）は、平成31年度合併総会・懇談会を同年4月14日（日）、神戸三宮・東急REIホテルで開催しました。

挨拶する岡本副会長

総会・懇談会は、藤本明幹事の司会により進行されました。

総会議長には、山崎洋一郎副支部長が就任し、進行されました。

総会では、幸村支部長が第１号議案、第２号議案を報告、田中二郎会計が収支決算を行い、稲原監査の監査報告、続く第３号議案、第４号議案、第５号議案「事業計画、収支予算案、支部役員紹介」の説明後、承認されました。

総会に続き、臼井宏氏の講演会「臼井の仮説「第８感」」の講演が行われました。

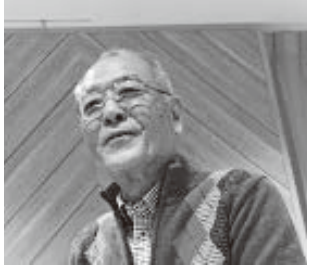
九州支部 （小松周治（F06）支部長）

友電会九州支部（小松周治（F06）支部長）は、2019年11月16日、福岡市内のオリエンタル福岡　博多ステーションにおいて、総会並びに懇親会を開催致しました。生憎、会員の都合がつかず、当初の日程を変更したため他支部総会と重なり、関係の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

総会は無事終了することができましたことをご報告致します。

総会は11時から開催し、友電会本部からは、山崎敏之副会長、内野正道組織部会長が出席され、役員改選も含め無事に終了することができました。

続いて、懇親会に移り、初参加者１名を含む11名が自己紹介と近況報告等を行い、和気あいあいの内に時間が過ぎてしまい、再会を願い終了することになりました。



令和元年度　九州支部事業報告

・令和元年　8月24日（土）　役員会開催
（於：福岡DININGひなた）
・令和元年　11月16日（土）　総会･懇親会
（於：オリエンタルホテル福岡）13名出席

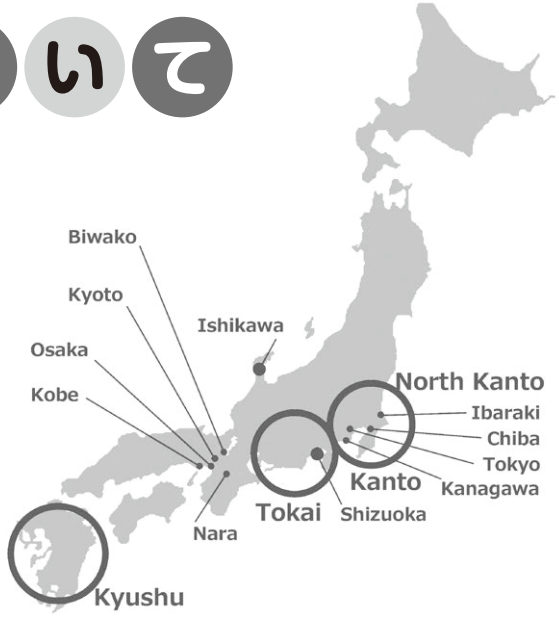
令和２年度事業計画（案）

・令和２年　7月11日（土）　役員会（於：福岡）
・令和２年　11月 7 日（土）　総会・懇親会

友電会支部について

国内外に16ある友電会支部では、それぞれ独自の事業・活動を展開し、日々交流を図っています。
各支部では、新卒業生の参画を大歓迎しています。支部については本部事務局に問い合わせください。
在学生の参画も呼びかけており、在学時からOBとの交流が図れるようにしています。
支部総会の案内などは、友電会ホームページにも掲載しています。

http://www.yudenkai.org/



大阪電通大 第1期入学生「36会」

友電会のホームページで紹介しています「36会」は、昭和36年に母校に入学した第１期生の有志22名が、昭和51年（1976年）８月、当時の友電会厚生施設「友電会湖の家」（滋賀県　湖西線「和邇駅」近く）に集い、中学や高校のような同級会（同期会）を開催したのが始まりです。会の名称も「36会」と命名して、その後は全国各地で継続的に開催しています。

懇親会場にて

今年は元号が令和になったのを記念して、母校の大学祭の前日、11月２日（土）に大津の琵琶湖湖畔に近いアヤハ レークサイド ホテルで、約10名の仲間と共に第13回目の「36会」を開催しました。このホテルは琵琶湖南側湖畔に位置して、ホテルの大浴場からも比叡山から近江富士までパノラマのように見ることが出来ました。

「36会」は皆、後期高齢者になってしまい、「できるだけ友電会に迷惑をかけないように」という方針のもと、会員への連絡も複数の幹事（当ホームページ2019年８月５日のOB会関連だよりを参照）の方々や会員の方々を中心に、メールや往復はがき、電話などで連絡をとりあいました。

□半世紀ぶりの再会

この成果でしょうか、夕方４時頃に大津市内在住の山本さんがご家族介護の合間を利用して、会員の一人に面会するためホテルへ来られたのです。実はこの方も「36会」会員とわかり、早速、別室で記念撮影をしました。私達とは、ほぼ半世紀ぶりの再会のようでした。

山本さんとの記念写真

□令和記念横断幕の披露

横断幕（紙製）はパソコンに精通された榎本さんが、外部のプリンターを利用して、立派なものを安価に製作されて、これを記念写真に活用しました。

□「延命は　不要と書いて　医者通い」

今回の宴会は、外部の方々からもいろいろと支援を頂きました。

例えば、元NHKアナの秋山さんからは、

延命は　不要と書いて　医者通い

などの「おもしろ川柳」が寄せられ、これと会員の金丸さんが寄せられた「シルバー川柳」を18時からの宴会の席上で一緒に資料配布。これを読んで皆さんはニッコリ。

後は、開会の挨拶、乾杯、自己紹介、欠席者の紹介、〆の挨拶などで宴会は終了。

その後、部屋に戻ったところ、窓辺からは季節はずれの花火５～６発が湖面高く打ち上げられ、これには少しビックリしました。どうやら観光客向けの花火だったようです。

秋の夜長も手伝って、皆さんが小部屋に集まって話し込んだり、The Blue Thunder Boysさんからの差し入れのお酒を楽しんだりしていました。

宴会の様子

□有朋自遠方来　不亦楽

夜も９時半過ぎになって、北野さんが突然に顔を出されたのです。話を聞くと、今日は名張での仕事だったそうですが、急に皆に会いたくなって380kmも愛車を走らせて、ホテルにたどり着いたとのこと。

北野さんとのスナップ写真

氏のバイタリティに驚き、話が盛り上がったことは言うまでもありません。

夕方と深夜に２人もの突然の訪問者を迎えた今回の「36会」、大変良い思い出になりました。最後に、私達の「36会」にご協力頂きました皆様方に厚く御礼を申し上げ、この会がいつまでも続くことを祈りながら報告とさせて頂きます。

（青木政治　記）

令和元(2019)年度　友電会支部の活動報告

令和元年度の友電会支部活動は、16支部のうち12支部において総会が開催されました。

関東総支部　6月9日　於：アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張

東京支部　12月7日　於：都市センターホテル

神奈川支部　6月15日　於：スプリングバレーブルワリー横浜

東海総支部　6月1日　於：名鉄ニューグランドホテル

奈良支部　12月1日　於：ホテルフジタ奈良

大阪支部　10月5日　於：石切温泉「ホテルせいりゅう」

支部の活動は同窓会活動の基礎であり、支部の育成・活性化と新設に力を入れて取り組んでいます。卒期を超えて同郷出身の絆を深める交流・親睦の場、職場や職種を通じて仲間が集まる場になることもあるでしょう。（P28～P39および裏表紙をご覧ください）

各支部では、新卒業生の参画を歓迎します。在住の地区の支部か本部事務局に問い合わせください。友電会は、友電会事業や支部活動などをホームページで紹介しています。是非、ご覧ください。

連絡先　友電会事務局　　yudenkai@yudenkai.org

北関東支部　6月9日　於：アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張

茨城支部　6月9日　於：アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張

びわこ支部　10月13日　於：近江八幡市　瓦亭

京都支部　11月16日　於：京都からすまホテル

神戸支部　4月14日　於：神戸三宮東急REIホテル

九州支部　11月16日　於：オリエンタルホテル福岡　博多ステーション

友電会
主催

第42回(令和元年度)
卒研室対抗ソフトボール大会開催

堀井大輔研究室(健康スポーツ科学科)が優勝

2019年9月3日(火)、4日(水)の両日、母校・寝屋川キャンパスのグラウンドにおいて恒例の第42回卒研室対抗ソフトボール大会を開催致しました。近年、酷暑に見舞われる大会に、今年は23チーム(30研究室)、346名が出場し、熱戦が繰り広げられました。

試合はトーナメント方式で進行し、1日目で19チームが姿を消しました。翌2日目には、午前中に準決勝2試合と学生との親睦·交流を図る教職員チームとの試合があり、ファインプレーや珍プレーにチーム関係なく楽しい時間を過ごしました。

優勝カップ

友電会主催の卒研室対抗ソフトボール大会は、学生の母校で過ごす最後の夏の恒例行事として定着してきました。

開会式は、3日午前10時から寝屋川キャンパス・グラウンドにおいて中田亮生(D32)友電会事務局長(母校教授)の司会で進行されました。主催者を代表して友電会の福田　武(E02)会長が次のように挨拶し、参加する学生に激励のことばを贈りました。

挨拶する友電会会長

進行役を務める中田事務局長

「昨今の天候不純な中、開催が危ぶまれていましたが、何とか2日間の天気がもつことを期待しています。私が在籍した50数年前は、学生も少なく、研究室だけでなく、クラブや仲間でチームを作って参加していました。半世紀にわたる伝統あるこの大会は、皆さんの学生生活の思い出作りに役立ててほしい。」と福田　武友電会会長の開会の挨拶があり、母校就職部からは、この大会で最もさわやかで熱く戦ったチームへの贈り物を準備して下さり、激励して頂きました。開会式後、グラウンドの4コートに分かれての白熱戦が開始されました。

白熱戦の様子

準決勝戦は井岡・阿南研究室（機械工学科）と堀井研究室（健康スポーツ科学科）が対戦、堀井研究室が8対４で井岡・阿南研究室を退け決勝戦に進出。もう一方の試合は、早坂研究室（情報工学科）と伊興田・松浦研究室（電気電子工学科）が対戦、早坂研究室が15対７で決勝戦に進出しました。

午後から開催の決勝戦は、堀井研究室（健康スポーツ科学科）と早坂研究室（情報工学科）の対戦となりました。第42回卒研室対抗ソフトボール大会23チームの頂点に上り詰めたのは、堀井研究室（8対3）でした。

また、就職部賞（最もがんばったチームに贈られる賞）は、新関研究室（電子機械工学科）が選ばれました。

優勝チーム

準優勝チーム

就職部賞

第３位チーム

試合結果は、次の通りです。

●大会結果

優　勝　堀井大輔研究室（健康スポーツ科学科）

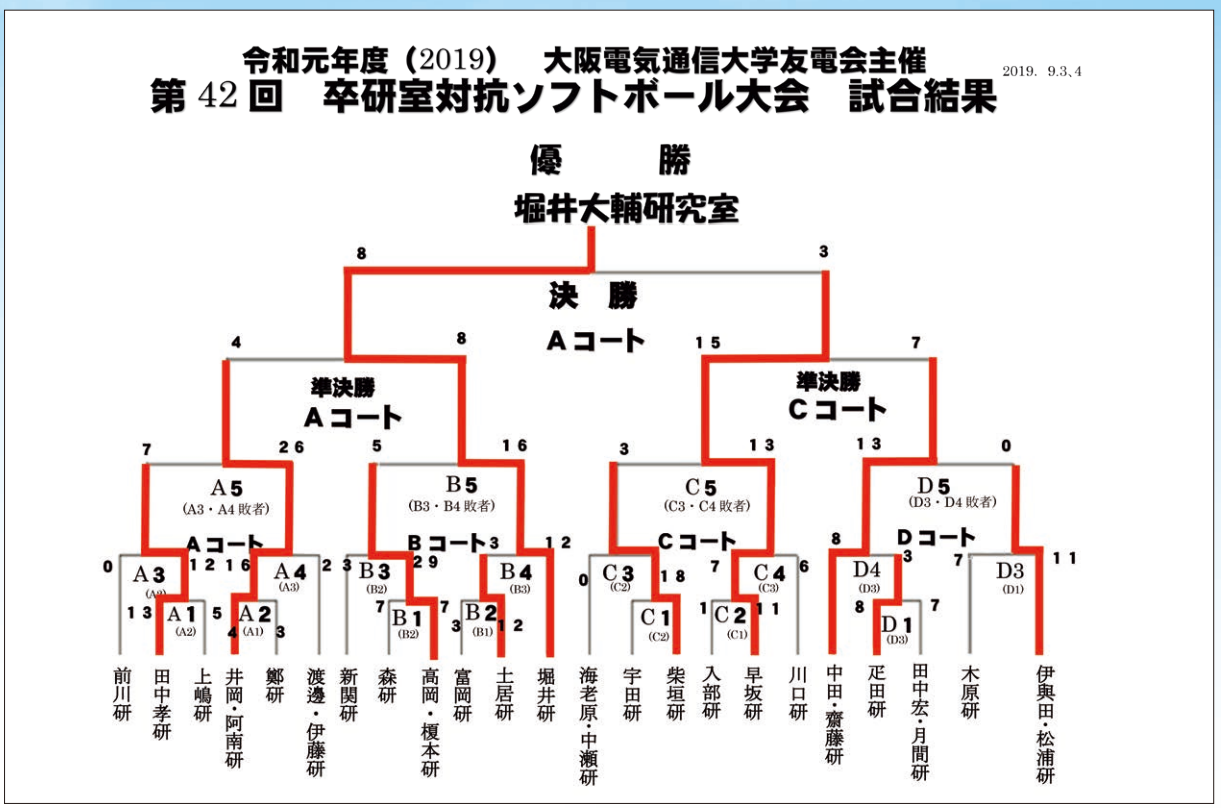
準優勝　早坂　昇研究室（情報工学科）

３　位　井岡誠司研究室・阿南景子研究室（機械工学科）

〃　　中田亮生研究室・齋藤安貴子研究室（環境科学科）

特別賞（よくがんばった大賞…就職部賞）

新関雅俊研究室



OECU 大阪電気通信大学 医療福祉の会

学科創立20周年 記念パーティー

日時 2020年6月28日(日)　12:00～　**会場** ヒルトン大阪

ごあいさつ

2020年6月28日(日)に開催の20周年記念パーティーにおきましても、スタッフがより良い記念パーティーとなるように奮闘しております。

皆様におかれましてもお声かけをいただいて多くの卒業生にご参加いただけるようによろしくお願いいたします。

詳細は決まり次第追って報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

▶主　催：医療福祉の会

▶共　催：大阪電気通信大学医療健康科学部
大阪電気通信大学友電会

▶お問い合わせ先

代表世話人　医療福祉の会　岡 崎 浩 也
(E-mail:oecu.lob@gmail.com)

※ 詳細は、後日ホームページにてご案内いたします。

大阪電気通信大学 学園創立80周年記念

寝屋川キャンパス新棟建設整備事業

期日 2020年3月7日(土)

第1期完成　2020年6月中旬

友電会の皆様へ

今般、工学部寝屋川キャンパスに建築面積9,200㎡、高さ16.555m、地上3階建の施設が完成します。

伴い、旧校舎が解体、大学の歴史を見つめ続けてきた校舎。私たちの青い春が封印された校舎とも見納めです。解体前に一度見学しませんか。

校舎正門で撮影された学生たち
(昭和36年頃)